

日立エコキュート 自然冷媒(CO₂)ヒートポンプ給湯機

【水道直圧給湯／高圧力型】(寒冷地仕様)工事説明書

タイプ	型 式			タンク 貯湯量
	システム	ヒートポンプユニット	貯湯ユニット	
水道直圧 給湯	BHP-F37GDK	BHP-HA452K	BHP-TAD372K	370L
	BHP-F46GDK	BHP-HA602K	BHP-TAD462K	460L
高圧力型	BHP-F37GUK	BHP-HA452K	BHP-TA372K	370L
	BHP-F46GUK	BHP-HA602K	BHP-TA462K	460L

安全上のご注意

	してはいけない内容です。		実行しなければならない内容です。
	警告 死亡や重傷を負うことが想定される内容です。		注意 傷害または物的損害の発生が想定される内容です。
	<ul style="list-style-type: none"> アース工事(D種設置工事)を必ず行う。 工事は「電気設備に関する技術基準」および「内線規定」に従って、電気工事士が行う。 (感電、故障の原因になります。) 		<ul style="list-style-type: none"> 貯湯ユニットの脚3か所を必ずアンカーボルトで固定する。脚部2か所しか固定できない場合や2階以上に据付ける場合などは転倒防止金具で上部を固定する。 (転倒による事故の原因になります。) 壁面へのねじ固定は、ねじが壁面のラス網等と電気的に絶縁した状態で行う。 (発熱して火災の原因になります。) 水道法に規定された水質基準に適合する水を使用する。 塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しない。 (熱交換器の破損やつまり、硫化物などによる金属腐食による水漏れ、故障の原因になります。) 以下の場所には設置しない。 <ul style="list-style-type: none"> ・塩害地（海浜地区で潮風が直接あたる場所） ・運転音や振動が気になる場所 最低気温が-15°Cを下回る地域では貯湯ユニットを屋内に設置する。 (凍結による故障の原因になります。屋内に設置する場合は、ドレンパン仕様品（受注対応品）としてください。) 凍結防止対策を行う。 (凍結による故障の原因になります。) 給水圧力を確認する。流水時に0.2~0.5MPaとなる範囲内の使用をおすすめします。この範囲外で使用すると、温調等、機器の能力を十分発揮できない場合があります。また、0.75MPa以上の場合は減圧弁等を設けて0.75MPa以上とならないようにしてください。 (BHP-F37GDK、BHP-F46GDK) 給水圧力を確認する。0.2~0.75MPaで使用してください。また、0.75MPa以上の場合は減圧弁等を設けて0.75MPa以上とならないようにしてください。 (BHP-F37GUK、BHP-F46GUK)
	<ul style="list-style-type: none"> 機器の近くにガス類や引火物を置かない。 (発火の原因になることがあります。) シャワー給湯には、必ずサーモスタット付混合水栓(逆止弁付)を使用する。 (万一の故障時に、やけどのおそれがあります。) ヒートポンプユニットは屋内に設置しない。 (万一冷媒が漏れると、酸素不足の原因になります。) 		<ul style="list-style-type: none"> 防水処理、排水処理をしていない床面に設置しない。 (万一漏水のときに大きな被害をおぼすおそれがあります。) 給水圧が0.3MPa以上の場合は、低水圧シャワーを使用しない。給水圧が0.3MPa以上で低水圧シャワーを使用すると、シャワーが破損することがあります。 (BHP-F37GDK、BHP-F46GDK)

1. 据え付けおよび付帯工事をされる方へ

- この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前にこの「工事説明書」を必ずお読みください。
- この説明書に記載されていない方法や保証書と適合しない内容で工事された場合、また、指定の純正別売部品を使用せず工事された場合、事故や故障が生じても責任を負いかねます。
- 工事後は、取扱説明書とともに、お使いになるお客さまにお渡しし、保管していただくよう依頼してください。
- この製品はリモコン（同梱品）を接続しないと動作しません。必ずリモコンを接続して使用してください。
- この製品は、次世代省エネ基準（IBEC 発行）の極寒地域（※）での使用が可能ですが、-25°Cを下回る地域では、据え付けないでください。（※極寒地域とは暖房度・日が4500度・日を超える地域です。）
- 最低気温が-15°Cを下回る地域では貯湯ユニットを屋内に設置してください。屋内に設置する場合は、ドレンパン仕様品（受注対応品）としてください。
- 防水処理、排水処理をしていない床面に設置しないでください。
- -10°Cを下回る環境下での据付工事は行わないでください。工事途中で配管が凍り、機器が故障する場合があります。
- 混合水栓には必ず逆止弁付混合水栓（現地準備品）を使用してください。
- 浴室では、やけど防止のため、サーモスタッフ付混合水栓（逆止弁付）を必ず使用してください。
- この製品は作動中に運転音がします。運転音や振動が気になる場所には据え付けないでください。また、各地の騒音規制等に関する条例に従って設置してください。
- 積雪地域ではヒートポンプユニットに高置台（別売品）、防雪カバー（別売品）を必ず取り付けてください。また、必要に応じて防雪屋根を取り付けてください。取り付けは、別売品付属の説明書に従ってください。
- ヒートポンプユニットのドレンホースの接続はしないでください。
- 塩害地では使用できません。
- 適用最大浴槽サイズは400Lです。
- 給水圧が0.3MPa以上の中では、低水圧シャワーは使用しないでください。給水圧が0.3MPa以上で低水圧シャワーを使用すると、シャワーが破損することがあります。（BHP-F37GDK、BHP-F46GDK）
- ガス機器から電気給湯機へ変更する際は、事前にガス業者への連絡が必要になります。
ガス業者への連絡をせずに無断撤去することは、法令により規制されておりますのでご注意ください。

【お願い】

- 貯湯ユニットは吊りあげないでください。
- 製品の上面には上がらないでください。変形することがあります。
- メンテナンスのための十分なスペースを確保してください。

2. 関連部品

	部品名	必要数	型式
必須	リモコンコード2芯5m	台所リモコン、ふろリモコン、サブリモコンそれぞれにいずれかを各1	BERC-5M2
	リモコンコード2芯10m		BERC-10M2
	リモコンコード2芯15m		BERC-15M2
	ふろ循環アダプター（L曲がり）	いずれか 1	BDAD-L
	ふろ循環アダプター（ストレート）		BDAD-S
	ふろ循環アダプター（薄型L曲がり）		BDAD-SL
	ふろ循環アダプター（薄型ストレート）		BDAD-SS
必要に応じて選択	エコパイプセットS(3m・20T)	いずれか 1	BHSEP3-20T(2m, 5m, 10m, 15mもあります)
	エコパイプセット(3m・20T)		BH-EP3-20T(2m, 5m, 10m, 15mもあります)
	サブリモコン	必要に応じ 1	BER-G1FS
	脚カバー	必要に応じ 1	BEAK-46N
	配管カバー	必要に応じ 1	BEAK-46M1
	アース棒	1 ※①	BEA-1
	防雪カバーセット	必要に応じ 1 ※②	BHBC-3

※①：アース棒は取り付けをおすすめする部品です。
※②：積雪地域では必ず BHBC-3 もしくは BHBC-4F, 4L, 4B を取り付けてください。
※③：積雪地域では必ず取り付けてください。

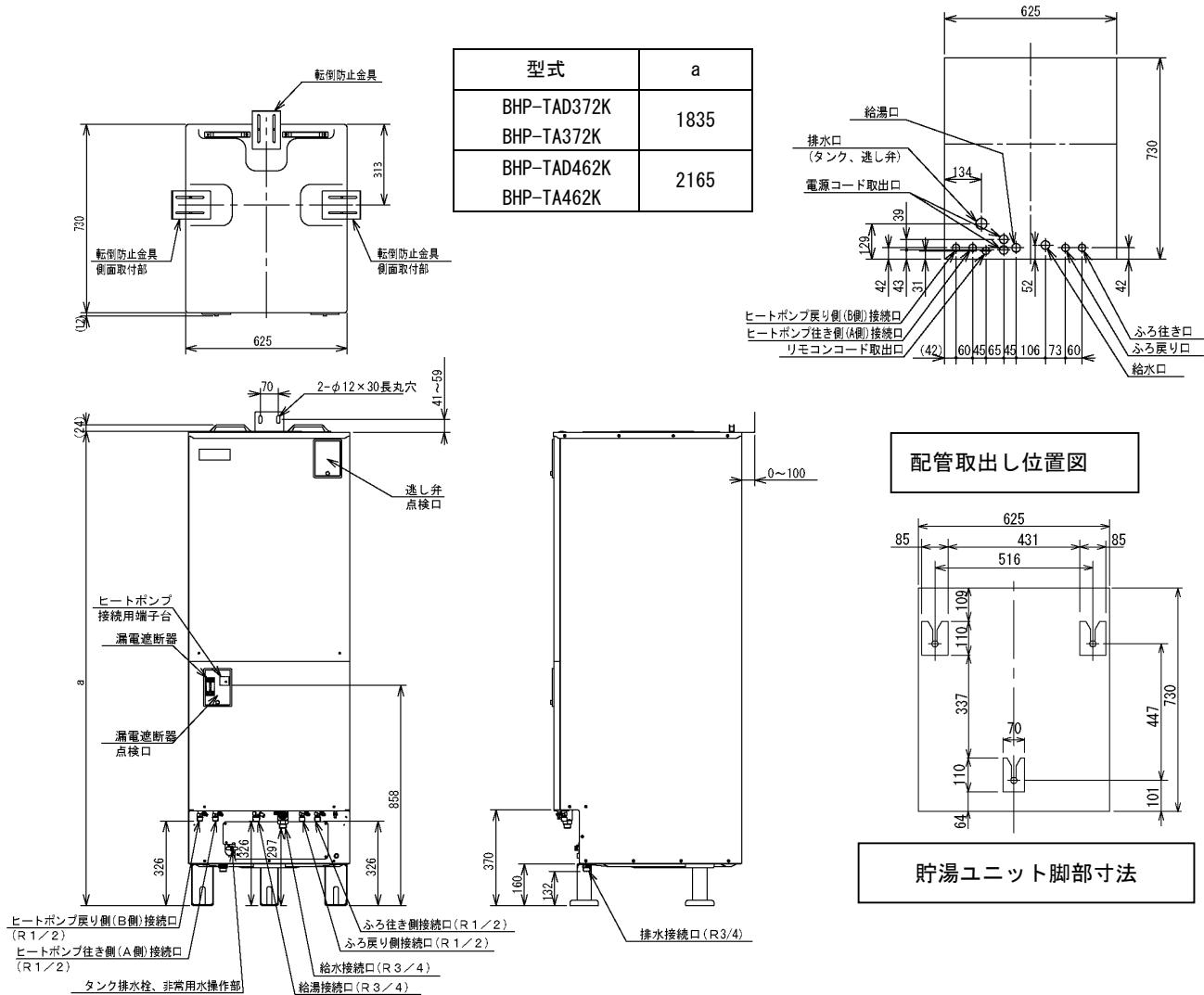
3. 同梱付属品

本体には、下記の部品・付属品が同梱されていますのでご確認ください。

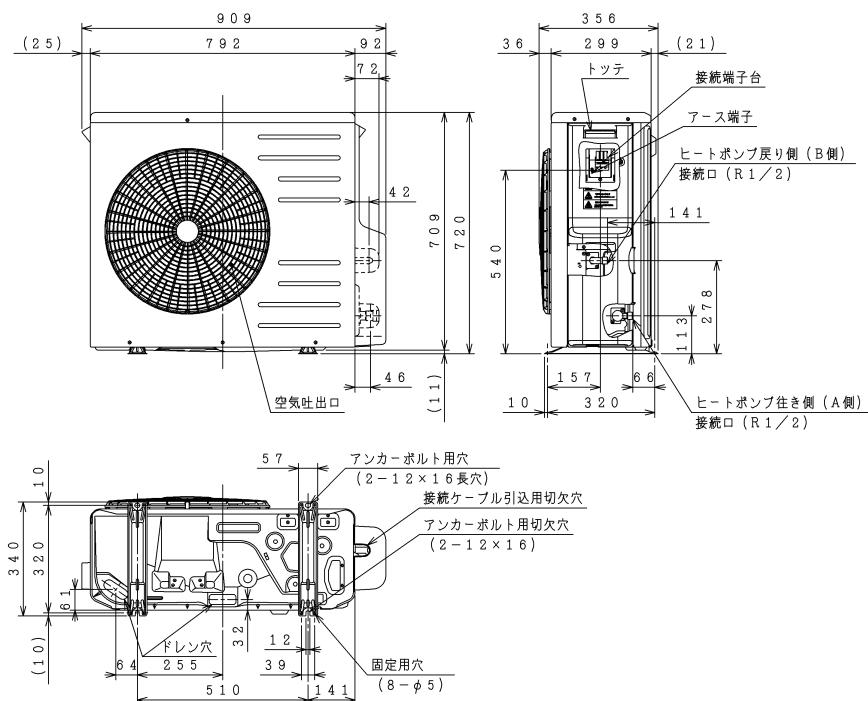
貯湯ユニット
保証書
取扱説明書
工事説明書（本書）
アンカーボルト型紙（梱包材に印刷しています）
リモコンセット（台所リモコン、ふろリモコン、付属品）
試運転ガイド
カンタンご使用ガイド

4. 製品外観図

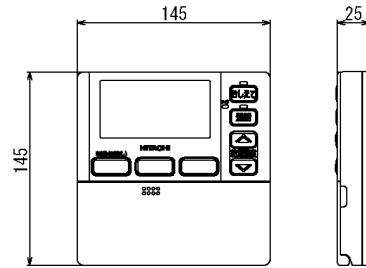
<貯湯ユニット (BHP-TAD372K、BHP-TAD462K、BHP-TA372K、BHP-TA462K) >



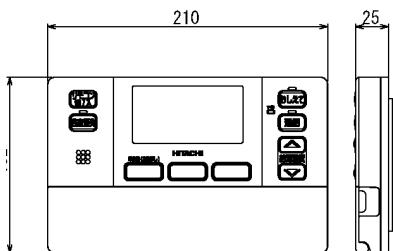
<ヒートポンプユニット(BHP-HA452K、BHP-HA602K)>



<台所リモコン>



<ふろリモコン>



5. 据付工事

5-1 据付場所の選定

- 機器と建物のすき間寸法については、各都市の火災予防条例に従ってください。
- ヒートポンプユニット、貯湯ユニットは機器の性能や保守点検のため「据付場所の制約」のスペースを確保してください。
- 配管に関する「据付場所の制約」を守ってください。
- -25°C を下回る地域では、据え付けないでください。
- -10°C を下回る環境下での据付工事は行わないでください。工事途中で配管が凍り、機器が故障する場合があります。
- 配管による放熱ロスを少なくするため、できるだけ給湯場所に近い所へ据え付けてください。
- 雨や雪が降ったとき、水たまりができる水につかるような所には絶対据え付けないでください。
- ヒートポンプユニット、貯湯ユニットはテレビ・ラジオのアンテナより 3m 以上離してください。
(テレビ・ラジオに映像のみだれや雑音が生ずることがあります。)
- ヒートポンプユニット、貯湯ユニットは水平な設置面に垂直に立てて据え付けてください。
(傾斜許容限界 2/100)

<ヒートポンプユニット>

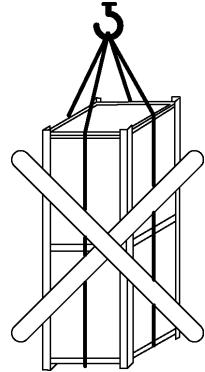
- ヒートポンプユニットはドレン水をたれ流しても良い場所に設置してください。
- ヒートポンプユニットは屋外で通気性の良い場所に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットのドレンホース接続はしないでください。
- ヒートポンプユニットは沸き上げ中および凍結防止運転中に若干の運転音、振動が発生します。また沸き上げ中は冷風が出ますので、寝室の近くやご近所の迷惑になる場所へは据え付けないでください。
- ヒートポンプユニットは風の吹き抜ける場所、強風の吹く場所に設置しないでください。(風が当たると除霜時間が長くなります。)
- 積雪地区へ据え付ける場合は、ヒートポンプユニットは必ず高置台(別売品)の上に据え付ける、また防雪カバー(別売品)を必ず取り付けるなど、降雪および除雪による雪が空気吸込口・吹出口から入らないようにしてください。また、屋根などからの落雪がある場合は推奨品の屋根などを付けて、落雪から機器を保護してください。

<貯湯ユニット>

- 最低気温が -15°C を下回る地域では貯湯ユニットを屋内に設置してください。屋内に設置する場合は、ドレンパン仕様品(受注対応品)としてください。
- 貯湯ユニットを室内(機械室)に据え付ける場合は、密閉室にならないよう通気口(換気口)を設け、熱がこもらないようにしてください。必要に応じて換気扇を設けてください。
- 床面の防水・排水工事を確実に行ってください。
- 浴室など湿気の多い所には据え付けないでください。
- 積雪地区で屋外へ据え付ける場合は、貯湯ユニットは小屋掛けをして雪がかかるのを防いでください。

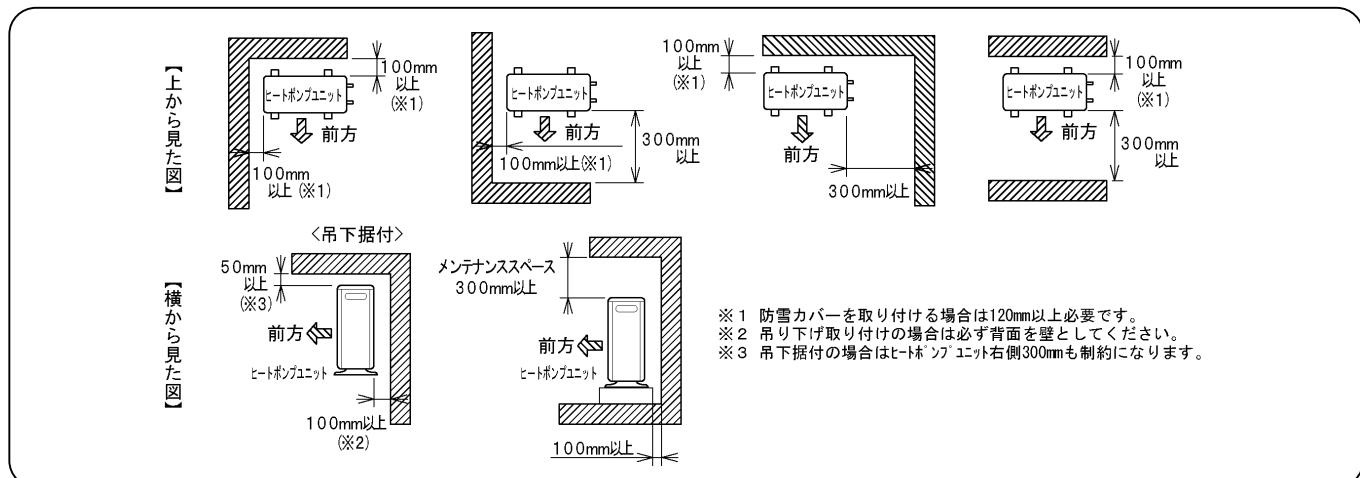
【搬入時の注意】

- 貯湯ユニットは、吊り上げないでください。2階以上へ運搬する場合は、エレベータやロングリフト等に乗せて、転倒しないように実施してください。
- 本体を横にしたままで地面や物の上に置かないでください。
- 開梱は設置場所近くで行ってください。
- 運搬は2人以上で行い、開梱後の運搬には本体上面に設けてある取手と本体の下部の脚を使用してください。
- 開梱後、仮置きする場合、強風などにより転倒しないよう充分注意してください。
- 本体の取手を使用し運搬する場合は、製品質量が重いので製品の落下、転倒などによりけがをしないように十分注意してください。

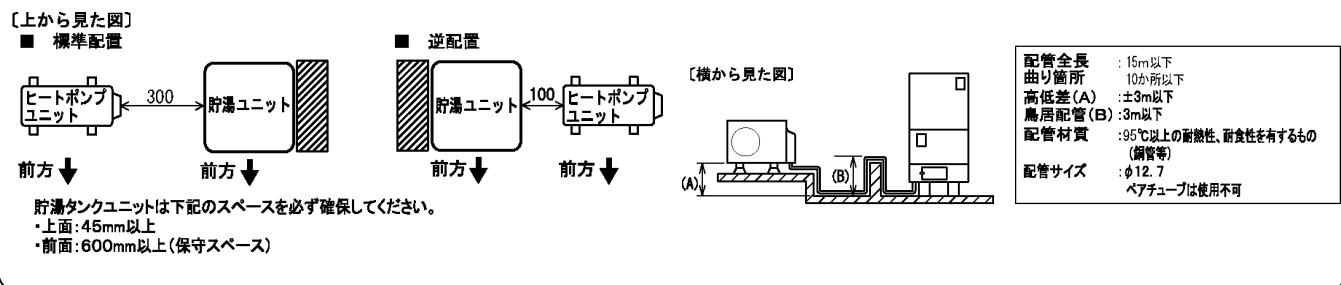


5-2 据付場所の制約

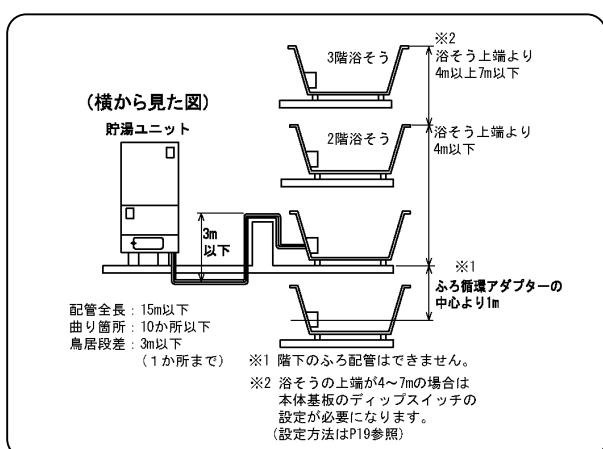
ヒートポンプユニット単体の据付制約（3方向に障害物がある場合は設置不可です）



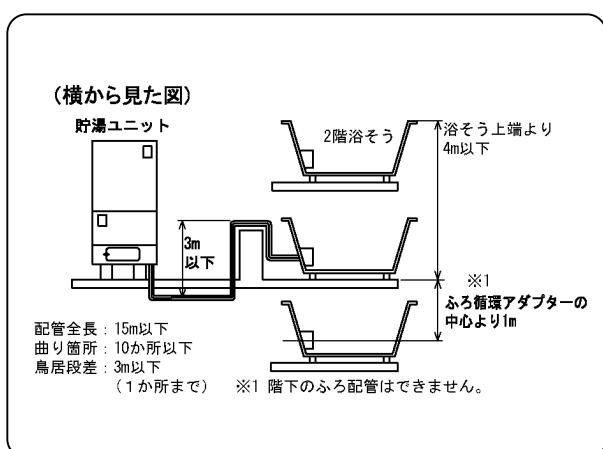
ヒートポンプユニットと貯湯ユニット間の据付制約



貯湯ユニットと浴そう間据付制約 (水道直圧タイプ BHP-F37GDK、BHP-F46GDK)



貯湯ユニットと浴そう間据付制約 (標準タイプ BHP-F37GUK、BHP-F46GUK)



5-3 ヒートポンプユニットの据付

- ヒートポンプユニットは屋外に水平に据え付けてください。
- ヒートポンプユニットには排水するドレン穴が2箇所あります。結露水の排水が適切にできるように据付を行ってください。
- 寒冷地では、ドレン水がベース表面に氷結し排水できなくなることがあります。そのため、ベース底にあるドレンパイプおよびブッシュはついておりません。ドレン水をたれ流しても良い場所に設置してください。
- 寒冷地では、ドレン水が下から氷柱となりドレン穴を塞いでしまいます。そのため、ベース底面から800mm以上の空間を確保してください。
- ヒートポンプユニットのドレンホース接続はしないでください。
- 積雪地域では【積雪地域の据付例】に従い防雪対策を行ってください。
- 2階以上や犬走りなどに据え付ける場合は、床据付部品を設置面に固定し、据付け部品の上に据え付けてください。
- 天井から吊り下げる場合は、天井吊下据付部品を使用してください。

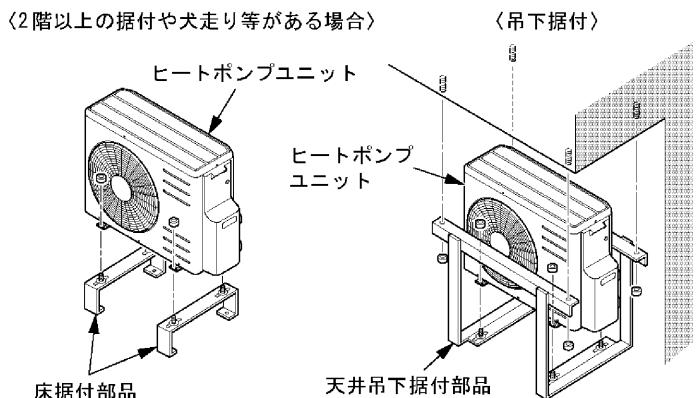
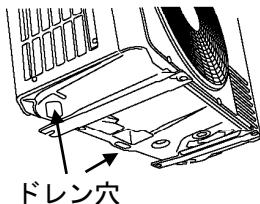
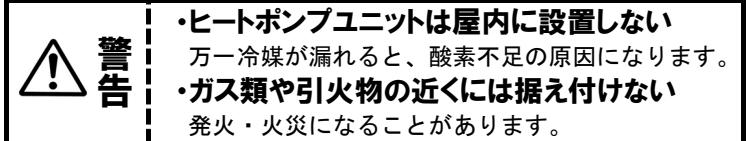
警告 ヒートポンプユニットを吊下据付する場合は、製品質量に耐える天井強度を持った場所を選定する

推奨品 床据付部品:(株)キャッチャーメーカー製:C-NUG
天井吊下据付部品:(株)キャッチャーメーカー製:C-DZG-L

【積雪地域の据付例】

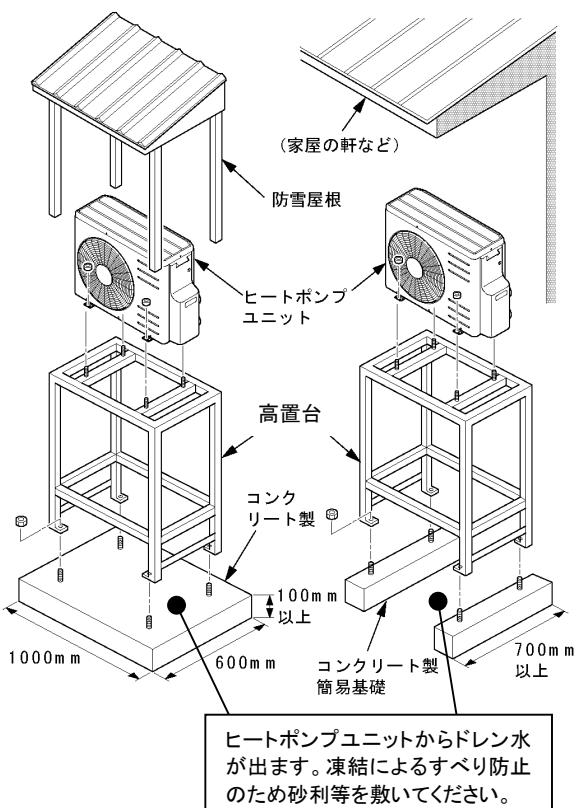
- 積雪や落雪によるヒートポンプユニットの埋没などを防止するため、ヒートポンプユニット高置台（別売品）の上に設置するなどの防雪対策を必ず実施してください。
- コンクリート製簡易基礎の上にヒートポンプユニット高置台（別売品）を設置し、据え付けてください。
- 防雪カバー（別売品）を取り付けてください。
- 屋根等から落雪がある場合やヒートポンプユニットに積雪がある場合は、下記推奨品の防雪屋根と高置台を使用してください。この場合、基礎工事は必ず行い、高置台をアンカーボルト（M12）で固定してください。

推奨品 架台:(株)キャッチャーメーカー製:C-WG-L、C-WZG-L
防雪屋根+高置台:(株)キャッチャーメーカー製:PC-RG30+PC-NG38



■積雪地域の据付け例

〈防雪屋根を設置する場合〉



〈防雪屋根を設置しない場合〉

5-4 貯湯ユニットの据付

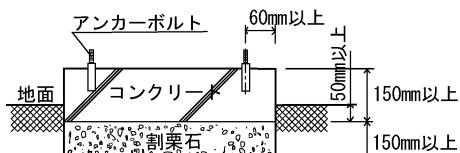
最低気温が-15℃を下回る地域では貯湯ユニットを屋内に設置してください。屋内に設置する場合は、ドレンパン仕様品（受注対応品）としてください。

基礎工事

- 貯湯ユニットの満水質量に耐える場所の選定および基礎工事をしてください。

型式	満水時の質量	型式	満水時の質量
BHP-TAD372K	約 438kg	BHP-TA372K	約 433kg
BHP-TAD462K	約 537kg	BHP-TA462K	約 531kg

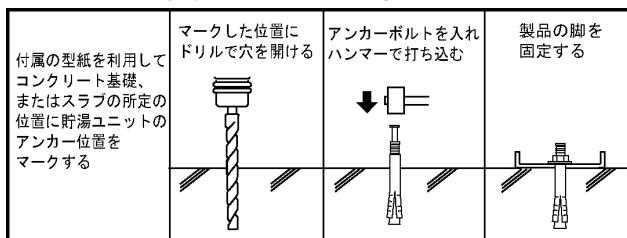
- 下図に基づき基礎工事を行ってください。コンクリートの圧縮強度は18MPa以上必要です。



- アンカーボルトの下穴は下表を参照してください。（芯棒打ち込み式アンカーボルトの場合）

呼び径	ドリル径 (mm)	穴深さ (mm)
M12	12.7	60

- アンカーボルトの施工例は下図を参照してください。地震時などの転倒防止のため、必ず脚部3か所をアンカーボルトで固定してください。



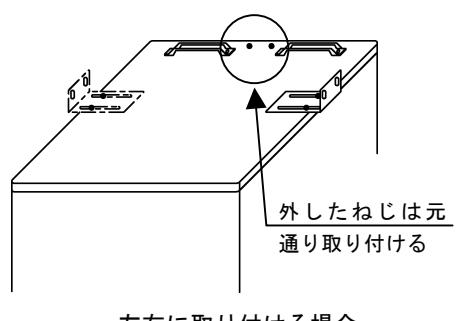
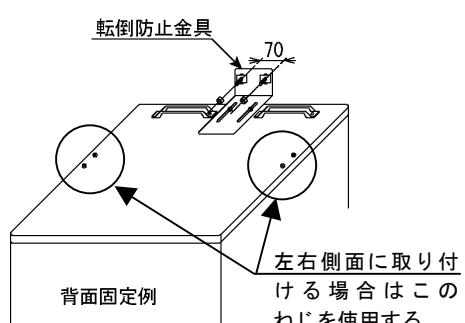
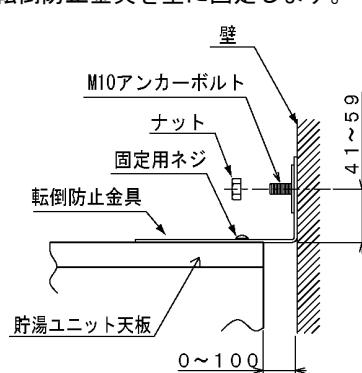
- 脚部を2か所しか固定できない場合は、次項の転倒防止金具または別売品の脚部後方差込金具を使用して貯湯ユニットを固定してください。

転倒防止金具の取付

- 脚部2か所しか固定できない場合や、貯湯ユニットを2階以上に据付ける場合などは必ず転倒防止金具を取り付けてください。
- 転倒防止金具は、貯湯ユニット上部の背面、左右のいずれかに取り付けます。

- 貯湯ユニット上面に取り付けてある転倒防止金具を外して上向きにして取り付けます。
- 左右に取り付ける場合は、転倒防止金具を固定していたねじを元通り取り付け、該当場所の固定ねじを外して転倒防止金具を取り付けます。
- 市販のアンカーボルトを使用して、転倒防止金具を壁に固定します。

- 引張荷重 5900N以上に耐える壁に固定してください。
- アンカーボルトは引き抜き力が2950N以上になる施工をしてください。



6. 配管工事

- 配管工事は給水装置工事主任技術者または給水装置工事配管技能者の資格がある方が行ってください。
- 水は、必ず水道法に定められた飲料水の水質基準に適合した水道水を使用してください。
- 塩分・石灰分・イオウ分、その他の不純物を多く含有する水や、純水、イオン交換水、井戸水は給水しないでください。
(熱交換器の破損やつまり、硫化物などによる金属腐食による水漏れ、故障の原因になります。)
- 配管を施工する前に配管内のごみは、きれいに清掃し給湯機内にごみが入らないようにしてください。
- 給排水配管、給湯配管、ふろ配管、ヒートポンプ配管の配管接続作業は必ずダブルスパナで行い、貯湯ユニットに無理な力がかかるないよう十分注意してください。
- 凍結防止のため、配管の凍結防止・保温工事を必ず確実にしてください。
- 配管工事用部品はシステムに適合した指定の別売品を使用してください。
- シャワー給湯栓は必ずサーモスタッフ付混合水栓(逆止弁付)を、その他の混合水栓も必ず逆止弁付混合水栓を取り付けてください。なお、シャワー給湯栓は構造により出湯量が極端に少ない場合がありますので、最低必要圧力、シャワー ヘッドの仕様を確認して選定してください。
- 給水圧が 0.3MPa 以上の場合には、低水圧シャワーを使用しないでください。給水圧が 0.3MPa 以上で低水圧シャワーを使用すると、シャワーが破損することがあります。(BHP-F37GDK、BHP-F46GDK)
- 全自動洗濯機に直接給湯配管することはできません。
- 太陽熱温水器のお湯を給水管に接続しないでください。
- ふろ接続は 1ヶ所のみです。2ヶ所以上の接続はできません。
- タンク排水管の下には必ず排水ホッパーを設けてください。必ずタンク排水管とホッパーとの間に 50mm 以上の空間を設け、排水管の排水が凍結した場合でも、タンク排水管を閉塞しないようにしてください。
(タンク排水(膨張水の排水)管が閉塞すると、逃し弁が動作してもタンクが破損することがあります。)
- 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。排水トラップがないと下水ガス等が逆流して給湯機が腐食します。
- 試運転終了後、給水接続口のストレーナを掃除してください。
- 配管用シール剤によっては揮発性ガスによりゴムなどを傷めることができます。特に引火性のものは使用しないでください。
- 浴そうへの下り勾配配管は不可です。

6-1 使用部材について

- ふろ循環アダプター等は、必ず日立純正部品を使用してください。

△ 注意	純正部品以外のふろ循環アダプターを使用すると、湯はりが正常に行われない場合があります。
-------------	--

- 機外の給水、給湯配管は耐震性を考慮して、建物の固定配管（給水・給湯管）との接続部にフレキシブル配管を使用することをおすすめします。

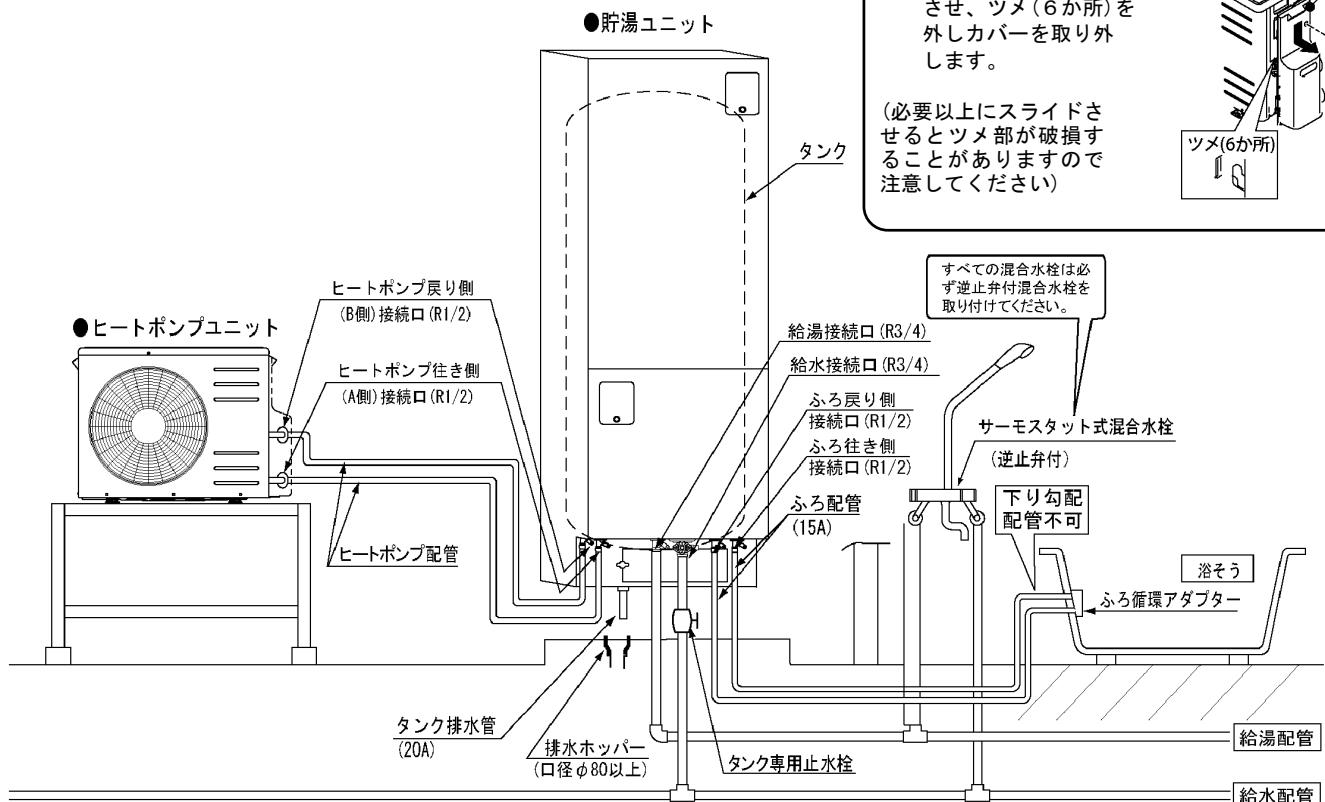
場所	使用配管材	配管サイズ	施工上の注意
ヒートポンプ配管	95°C以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管、架橋PEリチレン管、金属強化PEリチレン管）	10A (Φ12.7)	<ul style="list-style-type: none"> ● ヒートポンプユニットと貯湯ユニットを接続する配管は必ず指定サイズを使用してください。指定サイズ以外を使用すると沸き上げ不良や電気代増の原因となります。 ● 配管長さは片道15m、10曲りまでです。 ● 配管の高低差は3m以内としてください。（鳥居配管を含む） ● PEアチューブは使用不可です。A側、B側それぞれ独立した配管とし、放熱を防ぐ保温材を巻いてください。 ● 架橋PEリチレン管はエコパイプセット（別売品）をご使用ください。 ● 金属強化PEリチレン管は、エコパイプセットS（別売品）をご使用ください。
給水配管	耐食性を有するもの（銅管・水道用ライング銅管・水道用硬質塩ビ管）	20A (3/4B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 点検などで排水するときに必要な、タンク専用止水栓を取り付けてください。 ● 太陽熱温水器は接続しないでください。
給湯配管	90°C以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋PEリチレン管）	20A(3/4B) または 15A(1/2B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 階下への給湯の制限は下記の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ BHP-F37GDK、BHP-F46GDK：本体設置面より下方3.5m以上も可能 ・ BHP-F37GUK、BHP-F46GUK：本体設置面より下方3.5m以内 ● 配管径15Aの場合は、20Aに比べ給湯流量が約5%低下します。（15AはBHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ使用可能です。）
ふろ配管	80°C以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管・架橋PEリチレン管）	15A (1/2B)	<ul style="list-style-type: none"> ● 配管の長さは下記の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 15Aの場合、15m10曲がり以内 ・ 13A架橋PEリチレン管の場合、15m10曲がり以内 ・ Φ12.7銅管の場合、6m5曲がり以内 ● 階下へのふろ配管はできません。 ● 階上設置の場合、本体設置面から浴そう上端まで、上方4m以下にしてください。 BHP-F37GDK、BHP-F46GDKで4~7mとなる場合は、本体基板のディップスイッチの設定が必要です。詳しくはP19を参照ください。 ● 鳥居配管は最大高低差3m内で1か所としてください。 ● ふろ循環アダプターは必ず指定のものを使用してください。 ● フレキ管を使用される場合は、片側0.5m以内としてください。
タンク排水管	90°C以上の耐熱・耐食性を有するもの（銅管・耐熱性硬質塩ビ管）	20A 以上	<ul style="list-style-type: none"> ● 沸き上げ中にタンク排水管より少量のお湯（逃し弁からの膨張水）が出ますので、必ず排水工事を行ってください。 ● 口径Φ80以上の排水ホッパーや排水トラップを設けてください。 ● 1/200以上の先下り勾配とし、配管サイズは必ず20A以上でできるだけ短くしてください。 ● フレキ管は使用しないでください。抵抗になり流れが悪くなります。

- ヒートポンプ配管にフレキ管を使用する場合、フレキ管は放熱しやすいのでできるだけ短くしてください。（ヒートポンプ配管合計で1m以内）
- ヒートポンプ配管には耐熱性ノンアスベストタイプのパッキンを使用してください。ゴムパッキンは使用しないでください。水漏れの原因となります。
- ヒートポンプ配管の途中に逆止弁付止水栓は使用しないでください。逆止弁が抵抗になり、沸き上げが正常にできない原因となります。

6-2 ヒートポンプ、ふろ・給湯配管工事

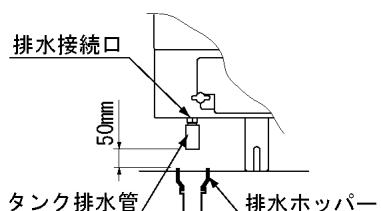
標準配管例

●給水圧 0.2MPa 以上



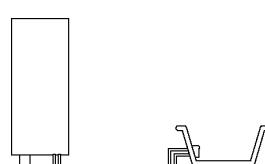
排水口付近詳細

- タンク排水管の先端は、排水ホッパー部が凍結しても、タンク排水管が凍結しないよう排水口空間を50mm以上設けてください。
- タンク排水管と排水ホッパーの中心を合わせてください。

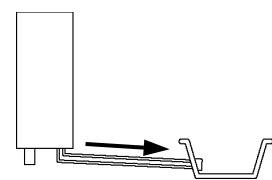


ふろ配管施工例

○ 正しい施工例



× 誤った施工例

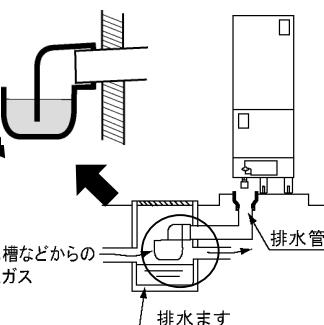


● 排水配管には必ず排水トラップを設置してください。

排水トラップがないと浄化槽などから下水ガスが逆流して、給湯機が著しく腐食し故障の原因になります。

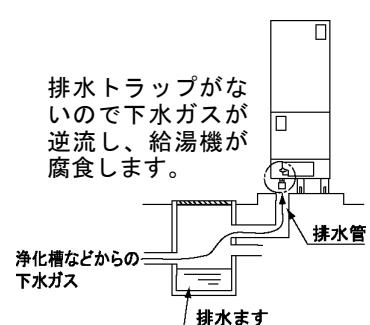
排水トラップがあるので下水ガスが逆流しません。
給湯機の膨張水により封水されます。

○ 正しい施工例



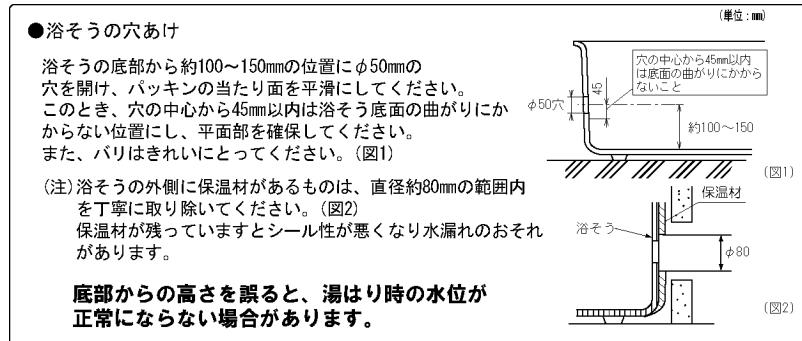
× 誤った施工例

排水トラップがないので下水ガスが逆流し、給湯機が腐食します。

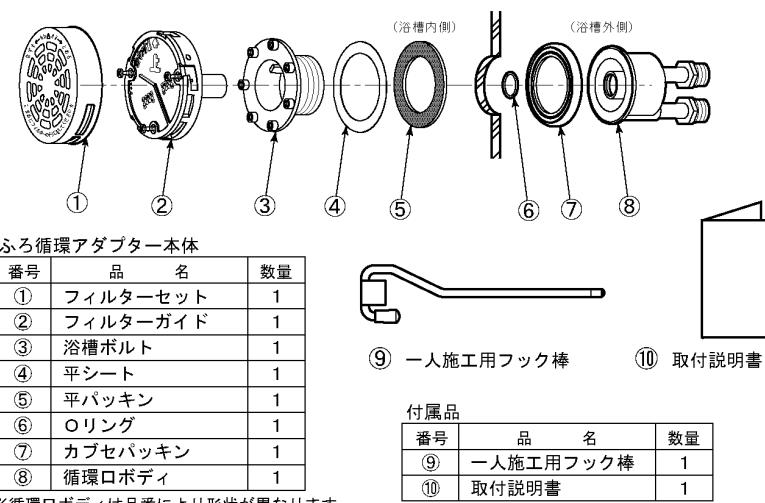


6-3 ふろ循環アダプターの取り付け例(型式:BDAD-S)

- ふろ循環アダプターは必ず日立純正品をご使用ください。
- 日立純正ふろ循環アダプターは厚さ20mmまでの浴そうに対応します。
無極性ですので、往き・戻りの指定はありません。



取り付けの前に、下記部品の数量を確認してください。
(平シートと平パッキンは取り付けたままにしておいてください。)

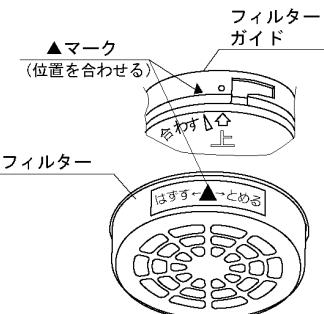


※循環口ボディは品番により形状が異なります。

フィルターセット取り付け注意

フィルターセットをフィルターガイドに無理に押し込まないでください

1. フィルターガイドは必ず『↑上』のマークを上にして取り付けてください。
2. フィルターセットは、フィルターガイドの『△』刻印にフィルターセットの『△』を合わせてはめ込み、右に止まるまで回してください。フィルターセットを正しく取り付けるとお湯吐出口は下側になります。



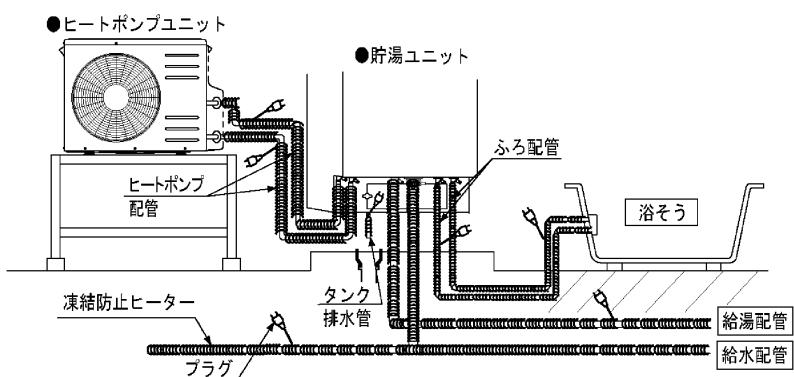
※詳しくは、BDAD-S の取付要領書を参照ください

6-4 凍結防止・保溫工事

保溫工事がしてあっても周囲温度が0°C以下になると配管は凍結し、機器や配管が破裂する場合がありますので適切な凍結防止対策を施工してください。

【凍結防止ヒーター施工例】

- 試運転(9項)終了後、配管の水漏れがないか確認して、凍結防止工事を行ってください。
- 凍結のおそれのある配管部分すべてに巻いてください。
- 凍結防止ヒーターは配管に直接取り付け、その上に保溫材を巻いてください。
- 各配管の接続口まで巻いてください。
- 凍結防止ヒーターは何本も使用しますので、適当な位置にコンセントを設けてください。
- コンセントはヒーターコードの出口より高い位置に取り付けてください。低いと雨や水がコードをつたわりコンセントにかかる恐れがあります。
- 凍結防止ヒーターの取扱方法、操作方法をお客様に充分説明してください。
- 保溫材は耐熱保溫材を使用して保溫工事をしてください。保溫材の厚みは20mm以上で各水道事業者指定の厚みに従ってください。(脚力バー取り付け時はケコミ部の保溫材の厚みを10mmとしてください。)
- 保溫工事をした部分は、保溫材がぬれないようテープなどで防水処理をしてください。
- 市販品メーカーには電圧100V仕様、発熱帶長さ約0.5m(8W)~20m(200W)相当がありますので選定して使用してください。



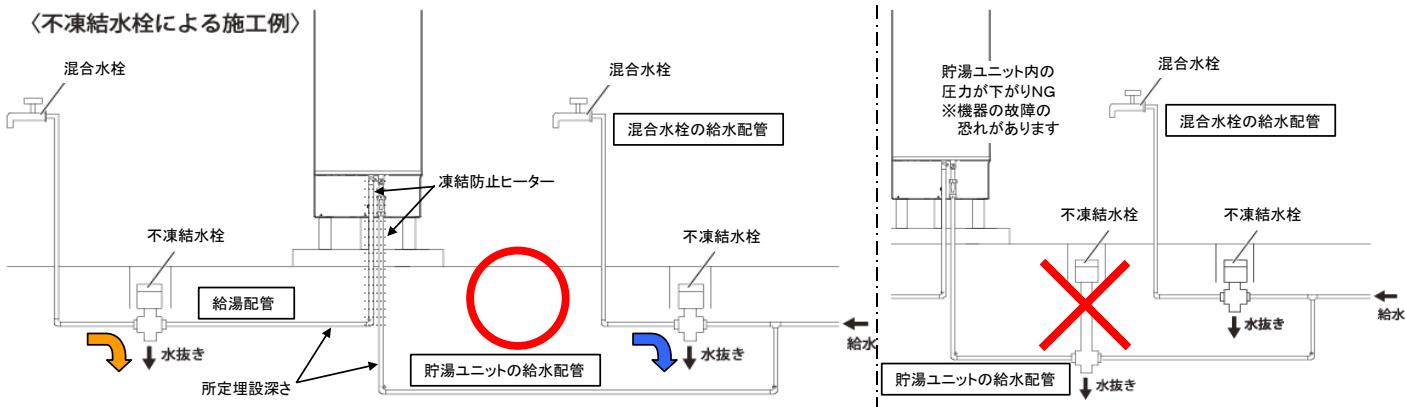
△注意 **凍結防止ヒーターの施工はヒーター同梱の説明書に従ってください。**

【不凍結水栓による凍結予防工事】

不凍結水栓は機器の故障のおそれがありますので、以下の点に注意してください。

- 原則として一次側に不凍結水栓は使用しないでください。
 - ・貯湯ユニットに水道圧がかかっていないと機器が故障することがあります。
 - ・凍結予防には、凍結防止ヒーターをご使用ください。
- やむを得ず、不凍結水栓を取り付ける場合は、貯湯ユニットに常に水道圧がかかるようにしてください。
 - ・貯湯ユニットから不凍結水栓までの配管は凍結防止ヒーターをご使用ください。

〈不凍結水栓による施工例〉



6-5 特殊配管工事

- 階上給湯、階下給湯とも給水圧は0.2MPa以上必要です。

【BHP-F37GDK、BHP-F46GDK】3階でシャワー、ふろを使用する場合は給水圧0.3MPa以上必要です。

階上給湯注意点

- 貯湯ユニット設置面より、浴そう上端までの高さは上方4m以内としてください。

【BHP-F37GDK、BHP-F46GDK】

4~7mとなる場合は、本体基板のディップスイッチの設定が必要です。詳しくはP19を参照ください。

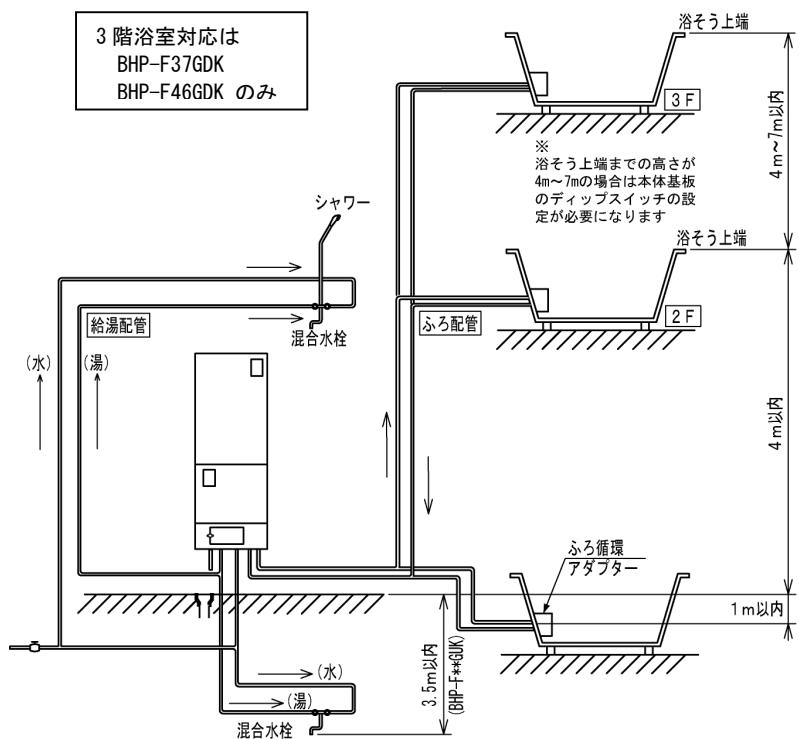
【BHP-F37GUK、BHP-F46GUK】

手洗い程度であれば、3階への給湯も可能です。(シャワーは使用できません)

階下給湯注意点

- 階下への浴そう設置はできません。
- 貯湯ユニット設置面より、ふろ循環アダプターまでの高さは下方1mまでとしてください。
- BHP-F37GDK、BHP-F46GDKの階下給湯配管は貯湯ユニット設置面より下方3.5m以上も可能です。
- BHP-F37GUK、BHP-F46GUKの階下給湯配管は貯湯ユニット設置面より下方3.5mまでとしてください。

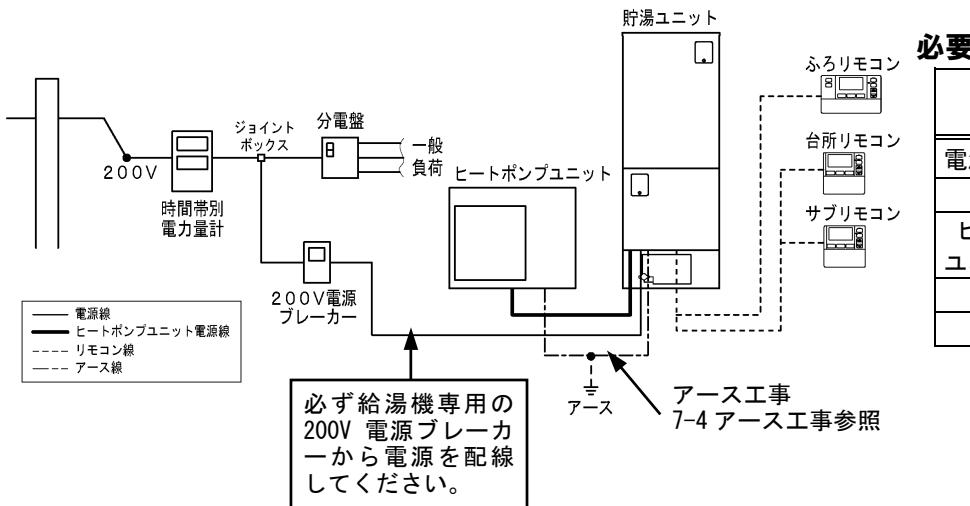
3階浴室対応は
BHP-F37GDK
BHP-F46GDKのみ



7. 電気配線工事をされる方へ

- 電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、指定工事業者が行ってください。
 - ブレーカーの定格および電線の太さは内線規程に定められたものを使用してください。
 - 電力契約は必ず「時間帯別電灯契約」または「季節別時間帯別電灯契約」としてください。
 - 必ず貯湯ユニットを満水にしたこと、各止水栓が開いていることを確認してから電源を入れてください。
 - 保護アース(接地)工事は万一の感電事故防止のため、電気設備に関する技術基準および内線規程に基づき、電気工事士によるD種接地工事を行ってください。

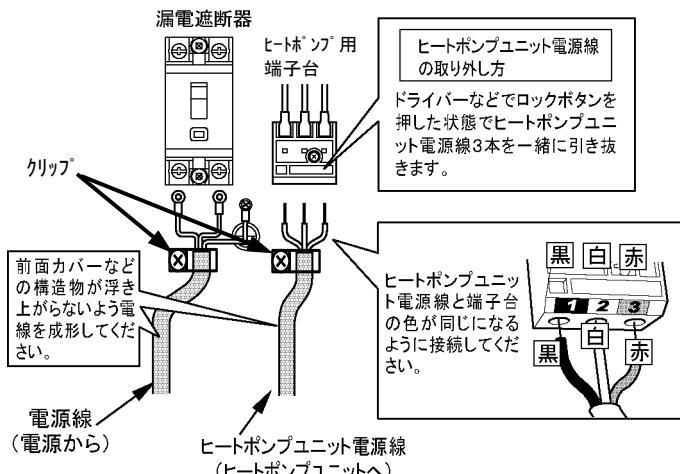
7-1 引込配線工事例



必要部材	
型式	BHP-F37GDK BHP-F46GDK
電源ブレーカー	単相 200V、20A
電源線	3.5mm ² 、(φ2.0mm)
ヒートポンプユニット電源線	3芯、φ2.0mm VVF 線
リモコン線	0.3mm ² 以上
アース線	φ1.6mm 以上 IV 線

7-2 貯湯ユニットへの配線工事

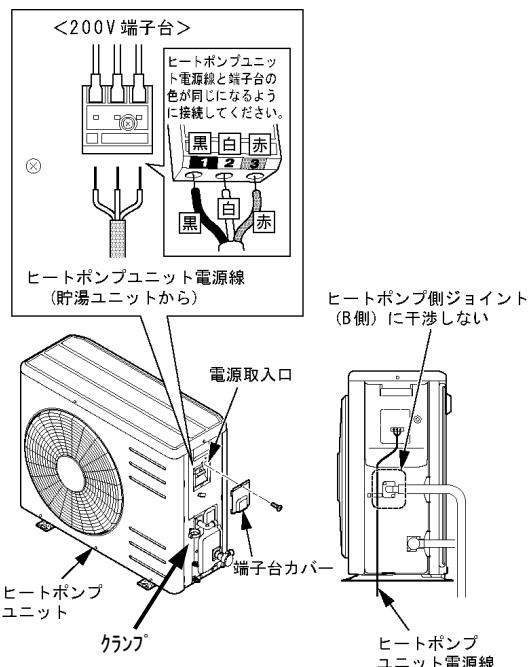
- 各電源取出口のゴムブッシュにカッター等で切込みを入れます。電源線、ヒートポンプユニット電源線を各電源コード取出口に通します。
 - 電源線(電源～貯湯ユニット)に圧着端子をつけ漏電遮断器へ接続します。
 - ヒートポンプ電源線の被膜を図の寸法に従ってむいてください。
極性がありますので必ず色を合わせ、端子台のそれぞれの挿入口より奥に当たるまで確実に差し込んで電線を引っぱり、抜けないことを確かめてください。
 - 電気工事の際、電源配線、アース接続以外の必要がないところには手を触れないでください。
 - 電源コードはクリップ(製品付属)で固定してください。また必要以上にたるませたり、丸めたりしないでください。



7-3 ヒートポンプユニットへの配線工事

ヒートポンプユニット配管カバー内にある端子台への接続方法は以下に従って行ってください。

- ①貯湯ユニットからヒートポンプユニットまでのヒートポンプユニット電源線をP F管(Φ16又はΦ22)に通します。
- ②端子台カバーを取り外し、ヒートポンプユニット電源線をヒートポンプユニット電源取入口まで配線します。
- ③クランプでP F管を固定します。
端子側のP F管がヒートポンプ配管B側より上で、B側に触れないように固定してください。
(P F管がヒートポンプ配管B側より下の場合、水抜きの時に水が入ります。またヒートポンプ配管B側は、90°C以上の高温になります)。
- ④ヒートポンプユニット電源線をヒートポンプユニットの200V端子台へ接続し、端子台カバーで固定します。接続要領は貯湯ユニットへの配線工事を参照してください。

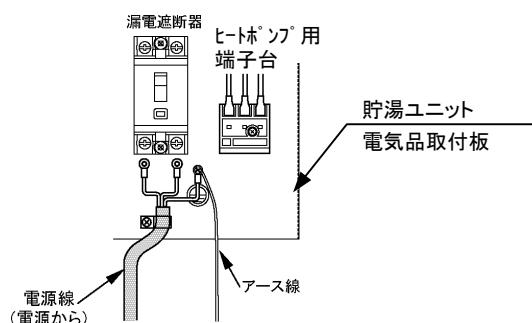


7-4 アース工事(接地工事)

警告 アース工事(接地工事)は必ずD種接地工事を行う

貯湯ユニット

電気品取付板のアース端子に市販のアース線(緑色)でアース棒を接続してください。

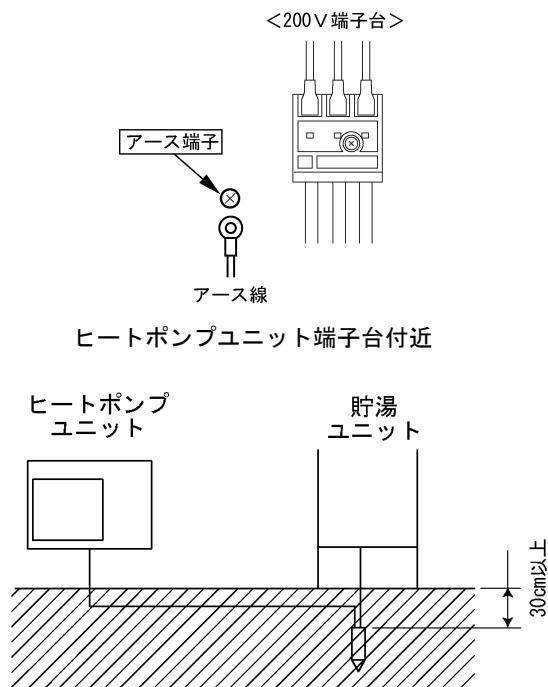


アース棒の取り付け

- ①アース線2本をアース棒に接続します。接続はハンダ付けで確実に行い、接触抵抗の変化がないように絶縁テープを巻付けてください。
 - ②アース棒を地中深さ30cm以上の穴を掘り、穴の底に打込んでください。アース棒の頭が地表に出るような打込みはしないでください。
- 水道管、ガス管への接地および他器具類用アースとの共用はしないでください。

ヒートポンプユニット

市販のアース線をヒートポンプユニット下より電源取入口へ通し、アース棒へ接続します



ご注意

電気配線が済んでも、貯湯ユニットへの給水準備が完了していない場合は電源スイッチを絶対に「入」にしないでください。

8. リモコン工事

- リモコンセットには以下のものが同梱しています。

- 台所リモコン×1ヶ
- ふろリモコン×1ヶ
- 木ねじ(Φ3.5×25)×2本・・・台所リモコン固定用(コード露出配線時)
- 木ねじ(Φ3.5×32)×4本・・・ふろリモコン固定用、防水カバー固定用
- ねじ棒大×1ヶ
- ねじ棒小×1ヶ
- 防水カバー×1ヶ
- コード押さえ×1ヶ・・・※防水カバー内に収納

- リモコンコードは別売りです。下記より選定してください。
 - BERC-5M2(コード長さ5m)
 - BERC-10M2(コード長さ10m)
 - BERC-15M2(コード長さ15m)(両端に接続用の端子が取り付けられています。)
- リモコンコードを現地調達される場合は長岡特殊電線製シールド付2芯ケーブル(MVVS、 $0.3\text{mm}^2 \times 2$ 芯、12/0.18mm)と同等品をご使用ください。他のコードを使用した場合、ノイズによる通信不良が発生する原因になります。
- リモコンの取付工事は専門の技術が必要です。販売店または工事店が行ってください。
- リモコンコードの接続は200V電源通電前に行ってください。
- リモコンコードは電源ケーブル、アース線および他機種のリモコンケーブルから離して配線してください。ノイズによる誤作動およびリモコンのスピーカーからノイズ音が発生する原因になります。
- リモコンコードの長さが台所リモコン、ふろリモコンの間は30m以下、貯湯ユニットと各リモコンの間は50m以下になるような場所にリモコンを取り付けてください。(8-3項「貯湯ユニットとの接続」を参照)
- 台所リモコン、ふろリモコンは凹凸のあるところには取り付けないでください。
- 台所リモコン、ふろリモコンにはインターホン機能があります。シャワーやテレビの近くには取り付けないでください。雑音の大きい場所では通話が途切れる場合があります。

8-1 台所リモコン工事

(1) 取り付け場所の選定

- 台所リモコンはボタン操作が容易に行え、表示が目の高さよりやや低い位置になるように取り付けてください。
- 台所リモコンは防水タイプではありません。湿気の多いところ、蒸気や水しぶきのかかるところは避けてください。
また、調理器のそばや直射日光の当るところに取り付けないでください。
- 台所リモコンの取り付け面が金属の場合、リモコンコードのY型端子が金属面と接触しないように注意してください。

(2) 壁面に取り付ける場合(コード露出配線)

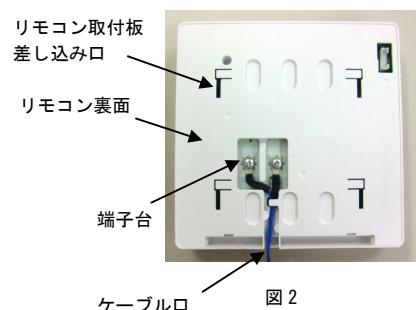
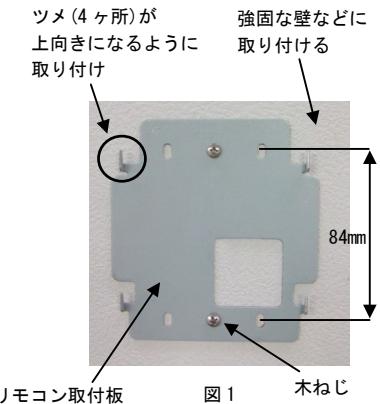
- リモコン取付板を木ねじ(Φ3.5×25)2本で壁に取り付けてください。
リモコン取付板はツメが上向きになるように取り付けてください。(図1)

(注) リモコン取付板を固定する際は、下記に注意してください。

ボタン操作が出来なくなる場合があります。

- リモコン取付板を壁に固定するときは、木ねじの頭が浮かないよう、しっかりねじ込んでください。また、凹凸のあるところには取り付けないでください。
- クロスなどやわらかい壁にリモコン取付板を取り付ける際は、取付板を木ねじで締めすぎないでください。締めすぎると取付板が湾曲する場合があります。

- リモコンコードを端子台に接続し、ケーブル口より引き出してください。(図2)



- ③リモコンケース裏面の差し込み口に、リモコン取付板のツメを引っ掛け(図3)、少し強くカチッと音がするまでリモコンを下方にスライドさせ、リモコン取付板を固定してください。(図4)
(注)台所リモコンへの配線がリモコン取付板と台所リモコン本体の間に挟まらないように注意してください。

- ④リモコンコードを壁に固定して貯湯ユニットまで配線します。
(3)リモコンコードを壁中に通す場合(コード埋込配線)

- ①リモコン取付位置に埋込用スイッチボックス(JIS1個用)を取り付けてください。
- ②リモコンコードを電線管に通し、貯湯ユニットまで配線してください。(図5)
- ③リモコン取付板をスイッチボックスの取付ねじ穴に合わせ、Mねじ(現地準備品)で固定してください。(リモコン取付板はツメが上向きになるよう取り付けてください。)(図6)
- ④リモコンコードを端子台に接続してください。
- ⑤リモコンケース裏面の差し込み口に、リモコン取付板のツメを引っ掛け(図3)、リモコンを下方にスライドさせ、リモコン取付板を固定してください。(図4)

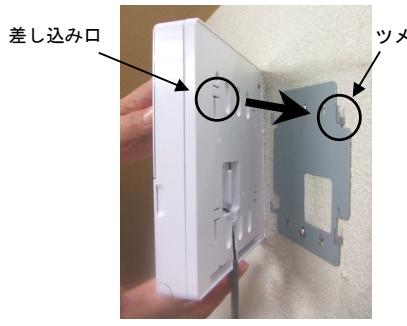


図3



図4

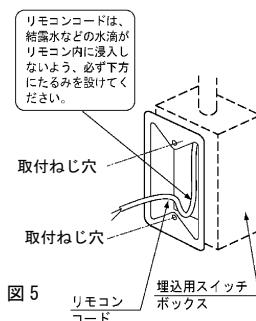


図5

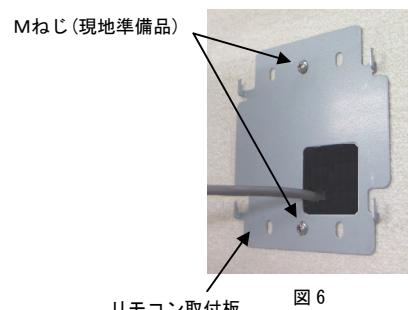


図6

8-2 ふろリモコン工事

(1)取り付け場所の選定

- 入浴の際、お湯がかかったりすることのない位置に取り付けてください。浴そうから20cmぐらい上の位置が適当です。(図7)
- 浴室外のふろリモコン取り付け用ねじ棒先端の防水カバー取り付け位置は、雨水、飛水のかからない乾燥した場所で、機器の排熱を受けない場所を選んでください。

(2)リモコン取り付け

- ふろリモコンを取り付ける前に、リモコン固定用ねじ部の化粧キャップを取り外してください。リモコンを取り付けあと、再度、化粧キャップを取り付けますので、無くしたり、破損したりしないように注意してください。
- ふろリモコンの扉を開くと、リモコン固定用ねじ部に化粧キャップが取り付けられています。(左右各1ヶ所)(図8)
- 化粧キャップは、上面を押しながら外側にずらして取り外します。

(図9、図10)

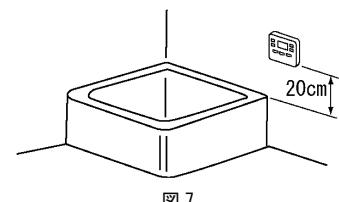


図7



化粧キャップ
(左右同じ)

図8

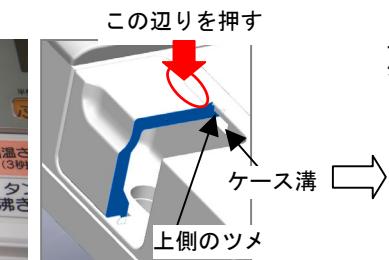
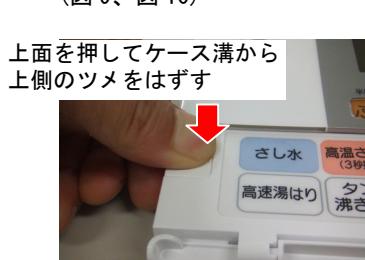


図9



図10

<ご注意>

化粧キャップの取り外し、取り付け時はドライバなどの工具は使用しないでください。ケースに傷がつきます。また、力を加えすぎますと、破損することがあります。

- ①穴径 30~35mm の貫通穴を空けてください。
- ②ふろリモコンから出ているリード線をねじ棒大、ねじ棒小に通します。
- ③ねじ棒大をふろリモコンねじ穴部にしっかりとねじ込み、接着シートのセパレート紙を剥し、浴室壁面に接着します。また、ふろリモコンと浴室壁面の隙間をコーリングやパテで必ず塞いでください。
- ④ふろリモコンの扉を開け、付属の木ねじ（ $\phi 3.5 \times 32$ ）2本を使用し、ふろリモコンを固定してください。
- (注) ねじを締め過ぎないように注意してください。締め過ぎますとリモコンのボタン操作を受けつけない場合があります。
- ⑤付属の化粧キャップをふろリモコンに取り付けます。（左右各1ヶ所）化粧キャップの下側のツメをリモコンの穴に差し込み、上面を押しながら上側のツメをはめ込みます。（図12、図13）
※化粧キャップは左右同じものです。
- ⑥ねじ棒小にナットを時計方向に回してねじ込み、更にねじ棒小をねじ棒大へねじ込み、防水カバーを浴室外壁面に押え付け、付属の木ねじ（ $\phi 3.5 \times 32$ ）2本で固定してください。
- (注) 締め過ぎますと、ねじ棒小が破損することがあります。
- ⑦リモコンコードの端子部分を切断し、コードの被覆を先端約7mmむいて、ふろリモコンから出ているリード線と接続してください。
- ⑧接続端子およびリモコンコードをねじ棒の中に入れ、コーリングやパテで隙間を塞ぎ、防水カバーのふたをしてください。
- ⑨防水カバーのふたをしてください。
- ⑩壁貫通穴の隙間は、パテ等で塞いでください。

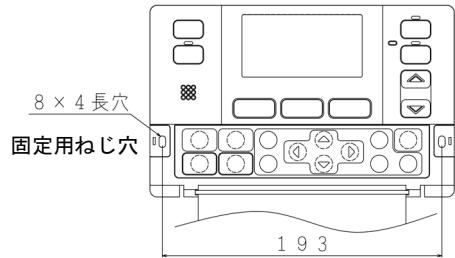


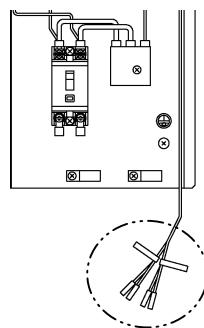
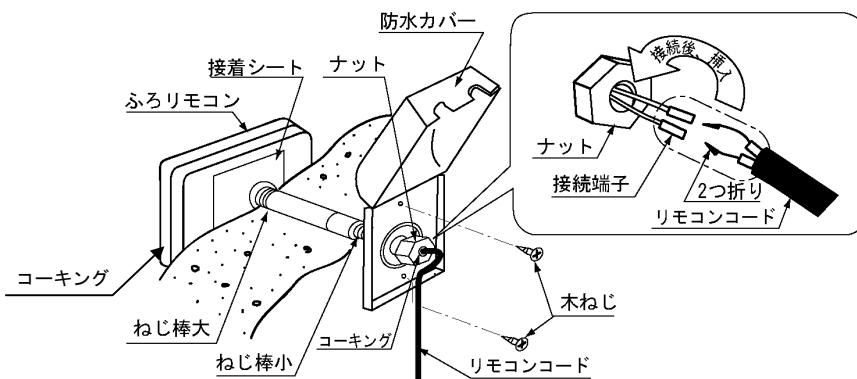
図11



図12



図13



8-3 貯湯ユニットとの接続

- 台所リモコン、ふろリモコンはどちらも無極性です。
リモコンコードは、以下を満足する長さとしてください。
- (1)台所リモコン、ふろリモコンの間は30m以下
(2)貯湯ユニットと各リモコンの間は50m以下

配線例を(A)～(C)に示します。

- ①リモコンコード取出口のゴムブッシュにカッターなどで切り込みを入れます。
- ②リモコンコード取出口からリモコンコードを通し、リード線の先端約7mmを皮ムキしてください。
- ③貯湯ユニット側リード線とカシメ作業を行ってください。

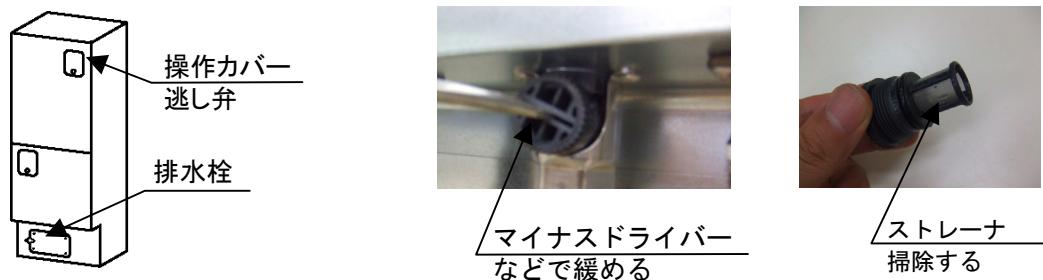
接続方法(A)	接続方法(B)	接続方法(C)
<p>リモコンコードの長さ ①+③≤30m ②≤50m</p>	<p>リモコンコードの長さ ①+②+③≤50m ①+③≤30m</p>	<p>リモコンコードの長さ ①+②+③≤50m ③≤30m</p>
<p>貯湯ユニット側</p> <p>シロ ふろリモコンヘ 台所リモコンヘ サブリモコンヘ</p>	<p>貯湯ユニット側</p> <p>シロ ふろリモコンヘ 台所リモコンヘ サブリモコンヘ</p>	<p>貯湯ユニット側</p> <p>シロ サブリモコンヘ リモコン接続端子 ナブリモコンヘ</p>

9. 試運転

据付工事および附帯工事が完了したら、お客様に機器を引渡す前に試運転を行ってください。

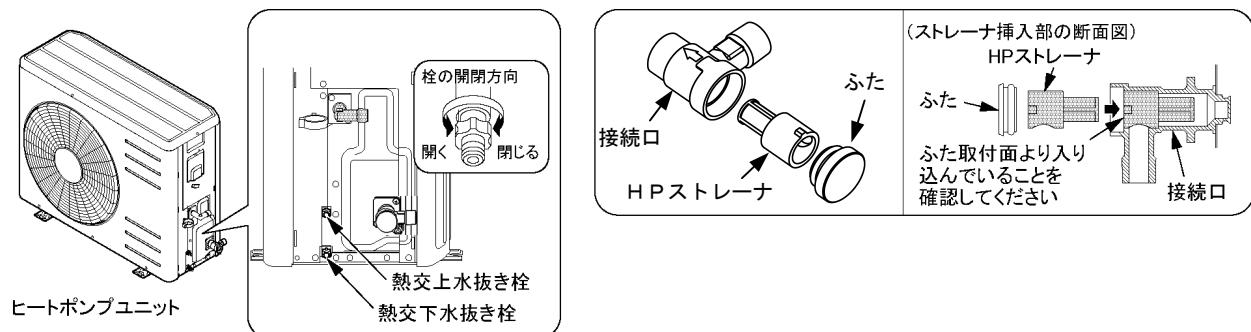
9-1 貯湯ユニットへの給水

- 貯湯ユニットへの給水は、30~50 分かかります。以下の手順で給水してください。
 - ①すべての混合水栓を閉じる。
 - ②現地施工のタンク専用止水栓を開き、排水栓を閉めます。
 - ③上部操作カバーを開き、逃し弁のレバーを上げます。
 - ④5分間給水した後、現地施工のタンク専用止水栓を閉じてストレーナの掃除をします。
 - ⑤再度、現地施工のタンク専用止水栓を開き、タンクへ給水します。排水管から水が出てきたら満水です。
 - ⑥逃し弁のレバーを下げます。
 - ⑦混合水栓をお湯側全開にして配管のエアを抜きます。水が出ない、出が悪い場合はストレーナの掃除をしてください。
 - ⑧配管接続部からの水漏れがないことを確認してください。



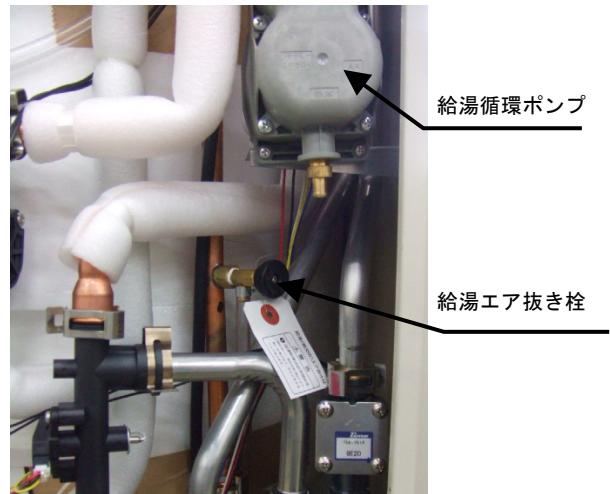
9-2 ヒートポンプユニットへの給水

- ①ヒートポンプユニットの熱交下水抜き栓を開きます。水が充分出るのを確認してから水抜き栓を閉じます。
- ②ヒートポンプユニットの熱交上水抜き栓を開きます。水が充分出るのを確認してから水抜き栓を閉じます。
※エアが抜けて水が出始めても、ヒートポンプユニット内にエアが残っている場合がありますので、水抜き栓は水が出始めてから3分以上は開けてください。
- ③現地施工のタンク専用止水栓を閉じて、ストレーナの掃除を行ってください。
- ④ストレーナの掃除が終わりましたら、現地施工のタンク専用止水栓を開けてください。



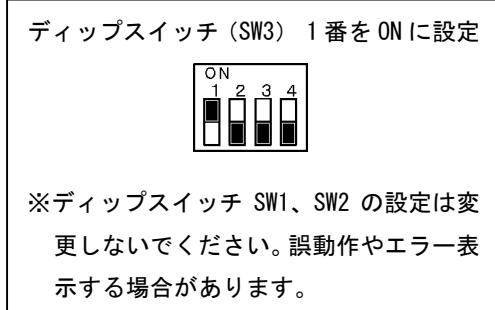
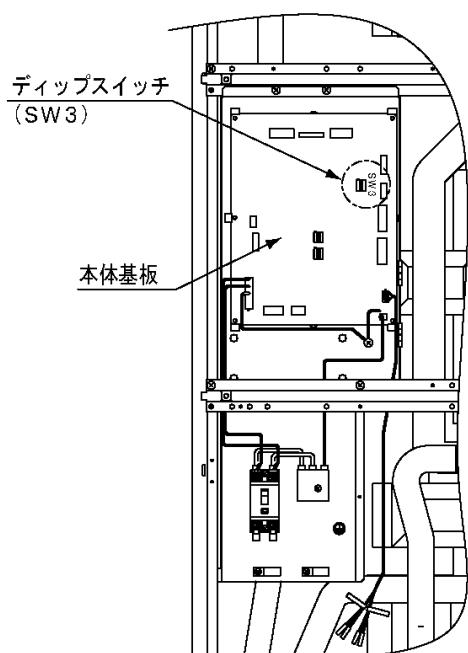
9-3 給湯熱交換器のエア抜き (BHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ)

- ①給湯エア抜き栓の位置は右図になります。
- ②給湯エア抜き栓を開くとエア混じりの水が出てきます。
ビニールホースをバケツ等で受けてください。また、給湯エア抜き栓からは勢いよくエア混じりの水が出てきますので、周囲に水がかからないよう注意してください。
- ③給湯エア抜き栓を全開にして、約1分間水を出し、エア混じりの水が出ないことを確認したら、給湯エア抜き栓を閉めます。
※給湯エア抜き栓は必ず閉めてください。閉めていない場合、給湯温度がばらつく場合があります。



9-4 本体基板ディップスイッチ設定 (BHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ)

貯湯ユニット設置面から浴そう上端までの高さが4~7mとなる場合は、本体基板のディップスイッチ設定を下図の通り設定してください。



9-5 電源投入

①200V 電源ブレーカーを「入」にします。

②漏電遮断器の動作確認をする。

漏電遮断器の電源スイッチを「入」にし、テストボタンを押して、動作確認をします。

「入」になっていた電源スイッチが「切」になれば正常です。
確認が終ったら電源スイッチを「入」に戻してください。

③電源スイッチを「入」にすると、リモコンに「起動中です しばらくお待ちください」の表示が出た後「試運転ナビをする、しない」の表示が出ます。試運転ナビを使用して試運転を行う場合は「する」を、手動で試運転を行う場合は「しない」を選択してください。

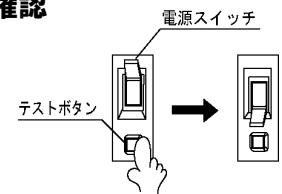
「する」「しない」は「◀」「▶」ボタンで選択し、【決定】ボタンを押してください。

④試運転ナビを使用する場合は 9-6 項へ、使用しない場合は 9-7 項へ進んでください。

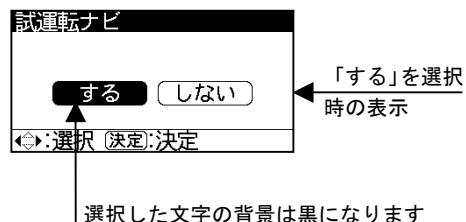
警告 漏電遮断器の動作確認をする。

漏電遮断器の動作確認

電源スイッチを「入」にして、テストボタンを押したときに「切」になれば正常です。「入」に戻してください。



起動中です
しばらくお待ちください



9-6 試運転ナビによる試運転手順

9-6-1 試運転ナビによる試運転手順【BHP-F37GDK、BHP-F46GDK】

試運転ナビ(ナビゲーション)は、以下の順番で進んでいきます。台所リモコンに表示される確認、試運転を行ってください。(所要時間約30~40分)

- 試運転ナビの前に9-1項、9-2項、9-3項、9-4項を必ず行ってください。
- 試運転ナビは台所リモコンでのみ行えます。
- 試運転を一度も完了していない場合、試運転ナビの途中で電源スイッチを「切」にすると、再度「入」にした場合、試運転ナビの最初に戻ります。(漏電遮断器の作動確認をするため、テストボタンを押し「切」にした場合も、再度「入」にした際に試運転ナビの最初の画面に戻ります。)
- 「沸き上げ設定」の運転モード設定時で「おまかせ 低温」は省エネになりますが、沸き上げる湯量が少なく、湯切れの心配がありますので、お湯の使用量がわからない場合、家族が多い場合、お湯の使用量が多い場合は「おまかせ 高温」を選択してください。



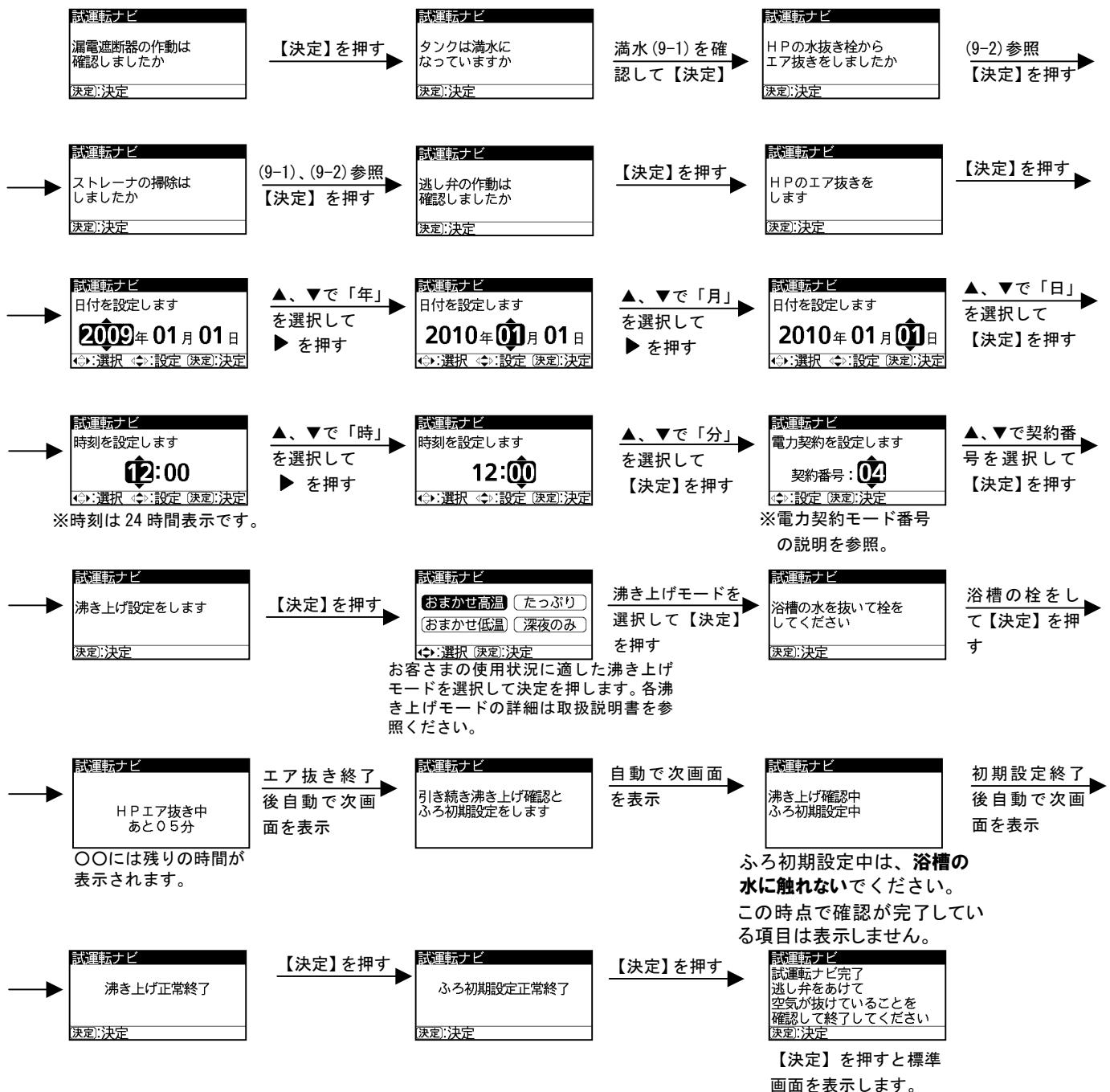
注意) 試運転ナビ終了後は、継続してタンク全量沸き上げ運転を行います。

試運転ナビ終了後に沸き上げを行わない場合は、9-6-3項を行ってください。

9-6-2 試運転ナビによる試運転手順【BHP-F37GUK、BHP-F46GUK】

試運転ナビ(ナビゲーション)は、以下の順番で進んでいきます。台所リモコンに表示される確認、試運転を行ってください。(所要時間 25~35 分)

- 試運転ナビの前に9-1 項、9-2 項を必ず行ってください。
- 試運転ナビは台所リモコンでのみ行えます。
- 試運転を一度も完了していない場合、試運転ナビの途中で電源スイッチを「切」にすると、再度「入」にした場合、試運転ナビの最初に戻ります。(漏電遮断器の作動確認をするため、テストボタンを押し「切」にした場合も、再度「入」にした際に試運転ナビの最初の画面に戻ります。)
- 「沸き上げ設定」の運転モード設定時で「おまかせ 低温」は省エネになりますが、沸き上げる湯量が少なく、湯切れの心配がありますので、お湯の使用量がわからない場合、家族が多い場合、お湯の使用量が多い場合は「おまかせ 高温」を選択してください。



注意) 試運転ナビ終了後は、継続してタンク全量沸き上げ運転を行います。
試運転ナビ終了後に沸き上げを行わない場合は、9-6-3 項を行ってください。

※ 電力契約モード番号と時間帯概要 (2010年1月現在)

・契約している電力制度の内容は、各電力会社にお問合せください。			
・Aゾーン、Bゾーン、Cゾーンの用語は説明のために付加したもので、各電力会社の定める用語ではありません。			
00	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	23 24
	・東北電力：やりくりナイト8 ・北陸電力：Eカナイト8 ・関西電力：時間帯別電灯 ・九州電力：時間帯別電灯	・東京電力：おけなナイト8 ・中部電力：タムブラン ・四国電力：電化deナイト、得トナイト ・沖縄電力：時間帯別電灯	
01	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	23 24
	・中国電力：エコナイト		
02	深夜時間帯 Aゾーン	朝晩・リビング Bゾーン	昼間時間帯 Cゾーン
	・東京電力：電化上手	・関西電力：はびeナイト	・沖縄電力：Eeナイト
03	深夜時間帯 Aゾーン	朝晩・リビング Bゾーン	昼間時間帯 Cゾーン
	・中国電力：アミリータイム		
04	深夜時間帯 Aゾーン	朝晩・リビング Bゾーン	昼間時間帯 Cゾーン
	・中部電力：Eライフラン		
05	深夜時間帯 Aゾーン	朝晩・リビング Bゾーン	昼間時間帯 Cゾーン
	・九州電力：電化deナイト ・北陸電力：Eカナイト10	・東京電力：おけなナイト10 ・九州電力：よかけ10	
06	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	22 24
	・東北電力：やりくりナイト10、やりくりナイト8 ・北陸電力：Eカナイト10	・東京電力：おけなナイト10 ・九州電力：よかけ10	
07	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	16 18 22 24
	・北海道電力：ドーリーM8、ドーリーM8E(深夜時間帯22時から~6時)	・北海道電力：ドーリーM8、ドーリーM8E(深夜時間帯23時から~7時)	
08	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	16 18 23 24
	・北海道電力：ドーリーM8、ドーリーM8E(深夜時間帯24時から~8時)		
09	深夜時間帯 Aゾーン	昼間時間帯 Bゾーン	16 18 24
	・北海道電力：ドーリーM8、ドーリーM8E(深夜時間帯24時から~8時)		

■ 給湯ポンプのエア抜き異常について (BHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ)

台所リモコンの画面に右の画面が表示された場合、下記の手順を実施

してください。

①9-3項「給湯熱交換器のエア抜き」を再度行ってください。

②「決定」を押します。

③再度、給湯ポンプのエア抜きを行います。

試運転ナビ

エア抜き異常です

[決定]：決定

■ 沸き上げを開始しないまたは停止する場合

台所リモコンの画面に右の画面が表示された場合、下記の手順を実施してください。

①電源を「切」してください。

②ヒートポンプ配管を確認してください。貯湯ユニット、ヒートポンプユニットのA側、B側の接続があつてあるか確認してください。

③9-2項「ヒートポンプユニットへの給水」を再度行ってください。

④電源を「入」にします。

台所リモコンの画面が「試運転ナビ」の表示になりましたら、「しない」を選択してください。(9-5. ③項参照)

台所リモコンの画面が通常の表示になりましたら、9-7項を行ってください。

試運転ナビ

沸き上げ異常終了

[決定]：決定

■ ふろ初期設定中に停止する場合

台所リモコンの画面に右の画面が表示された場合、下記の手順を実施してください。

①電源を「切」してください。

②浴そうの栓がしてあるか、ふろ配管から水漏れしていないか確認してください。

③電源を「入」にします。

台所リモコンの画面が「試運転ナビ」の表示になりますので、9-5. ③項に従い試運転を行ってください。

④浴そうの栓がしてあり、またふろ配管やふろ循環アダプターに異常がなくともふろ初期設定に失敗する場合は、配管内の空気が抜けていない可能性がありますので9-7-5項を行ってください。

試運転ナビ

ふろ初期設定異常終了

[決定]：決定

9-6-3 試運転ナビ終了後に沸き上げを行わない場合

試運転ナビ終了後に沸き上げを行わない場合は、「沸き上げ設定」と「湯切れ防止」を設定する必要があります。

<沸き上げ設定>

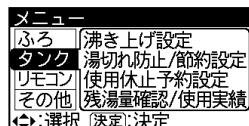
- ①台所リモコンの「メニュー」ボタンを押します。画面表示が「メニュー設定」画面に切り替わります。
- ②「▼」ボタンを1回押し、「タンク」が選択されたら「決定」ボタンを押します。
- ③「沸き上げ設定」が選択されたら「決定」ボタンを押します。
- ④既に設定してある湯量が表示されます。「▲」「▼」ボタンを押し「たっぷり」以外の湯量モードを選択し、「決定」ボタンで決定します。

<湯切れ防止設定>

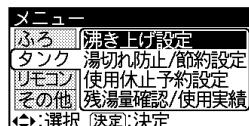
- ①台所リモコンの「メニュー」ボタンを押します。画面表示が「メニュー設定」画面に切り替わります。
- ②「▼」ボタンを1回押し、「タンク」が選択されたら「決定」ボタンで決定します。
- ③「湯切れ防止/節約設定」が選択されたら「決定」ボタンを押します。
- ④「切」を選択します。

注意) 凍結のおそれのある地域では、沸き上げは停止しないでください。また、据付から入居まで期間がある場合があり、電源を入れておくことができない場合は、10項の「水抜き要領」にしたがって、貯湯ユニット・ヒートポンプユニット内の水を完全に抜いてください。

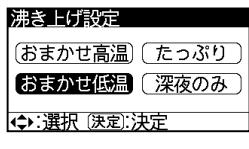
<沸き上げ設定の場合>



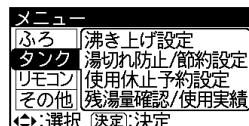
↓ 「タンク」を選択して
【決定】を押す



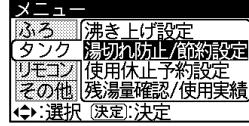
↓ 「沸き上げ」を選択して
【決定】を押す



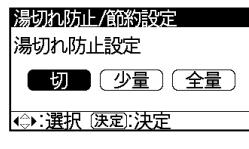
<湯切れ防止設定の場合>



↓ 「タンク」を選択して
【決定】を押す



↓ 「湯切れ防止/節約設定」
を選択して【決定】を押す



↓ 「切」を選択して
【決定】を押す



9-7 手動操作による試運転手順

手動で試運転を行う場合は、下記の順番で試運転を行います。

- (1)ヒートポンプ配管の強制エア抜き
- (2)給湯循環ポンプのエア抜き(BHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ)
- (3)電力契約、沸き上げモード、時刻、日付の設定
- (4)沸き上げ確認
- (5)ふろの試運転

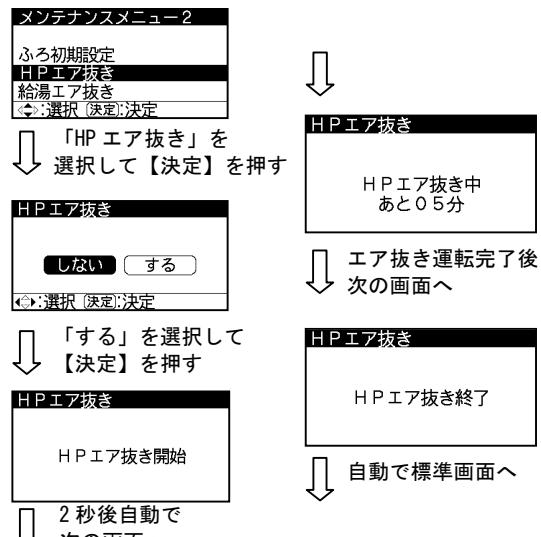
<ご注意>

- (5)ふろの試運転が完了していない状態で、電源を「切」→「入」した場合、台所リモコンの画面には、再度「試運転ナビをするしない」の表示となりますので、再度「しない」を選択してください。

9-7-1 ヒートポンプ配管の強制エア抜き

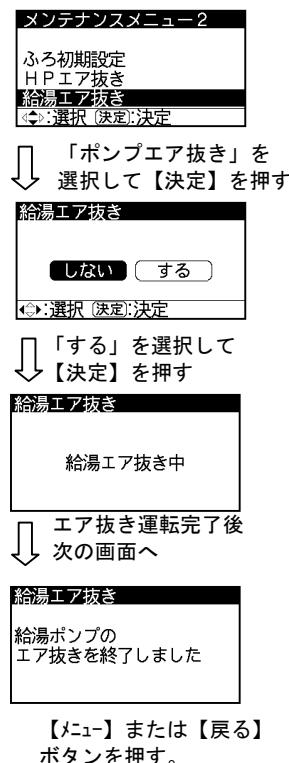
本操作を行う前に必ず、9-2 項「ヒートポンプユニットへの給水」を行ってください。

- ①台所リモコンまたはふろリモコンの「おしえて」「通話」ボタンを同時に5秒押します。リモコンの画面が「メンテナンス」画面に変わります。
- ②「▼」ボタンを4回押して「HP エア抜き運転」を選択し、「決定」ボタンを押します。
- ③「HP エア抜き運転 しない／する」が表示されたら、「▶」ボタンを1回押して「する」を選択し、「決定」ボタンを押します。ヒートポンプユニット側給水ポンプが動作し、エア抜き運転を開始します。
エア抜き運転は約5分行います。エア抜き運転中画面には残り時間が表示されます。
- ④エア抜き運転が終了したら、画面には「HP エア抜き運転 終了」が表示された後、自動で標準画面に戻ります。



9-7-2 給湯熱交換器、給湯ポンプのエア抜き (BHP-F37GDK、BHP-F46GDKのみ)

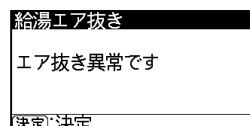
- ① 9-3 項「給湯熱交換器のエア抜き」を行ってください。
- ② 台所リモコンまたはふろリモコンの「おしえて」「通話」ボタンを同時に5秒押します。リモコンの画面が「メンテナンスマニュー1」画面に変わります。
- ③ 「▼」ボタンを5回押して、「給湯エア抜き」を選択し、「決定」ボタンを押します。
- ④ 「給湯エア抜き しない／する」が表示されたら、「▶」ボタンを1回押して「する」を選択し、「決定」ボタンを押します。
- ⑤ 給湯循環ポンプが運転し、エア抜き運転を行います。
- ⑥ エア抜きが正常に終了しましたら、「メニュー」または「戻る」ボタンを押します。画面は通常表示に戻ります。



※エア抜き運転が異常な場合、右図の画面が表示されます。

この画面が表示されましたら、以下の操作を行ってください。

- ① 9-3 項「給湯熱交換器のエア抜き」を再度行ってください。
- ② 「決定」を押します。画面が「給湯エア抜き しない／する」の画面に戻ります。
- ③ 再度給湯ポンプのエア抜きを行います。



9-7-3 電力契約、沸き上げモード、時刻、日付の設定

①台所リモコンの「メニュー」ボタンを押します。画面表示が

「メニュー設定」画面に切り替わります。

②「▼」ボタンを3回押し、「その他」が選択されたら「決定」ボタンを押します。

③「▼」ボタンを1回押し「一括設定」を選択して「決定」ボタンを押します。

④「電力契約設定」を設定します。電力契約選択時、画面に表示される番号と電力契約モードはP23を参照ください。

⑤「沸き上げ設定」を設定します。「おまかせ 低温」は省エネになりますが、沸き上げる湯量が少なく、湯切れの心配がありますので、お湯の使用量がわからない場合、家族が多い場合、お湯の使用量が多い場合は「おまかせ 高温」を選択してください。

⑥「湯切れ防止」を設定します。そのまま「決定」ボタンを押してください。「湯切れ防止」については、取扱説明書P50を参照ください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

⑦「節約設定」の設定をします。そのまま「決定」ボタンを押してください。「節約設定」については、取扱説明書P50を参照ください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

⑧「ふろ保温時間設定」の設定をします。そのまま「決定」ボタンを押してください。「ふろ保温時間設定」については、取扱説明書P51を参照ください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

⑨「音声ガイド設定」の設定をします。そのまま「決定」ボタンを押してください。「音声ガイド設定」については、取扱説明書P52を参照ください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

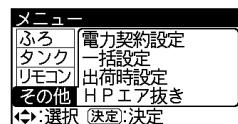
⑩「ガイド・ブザー音量設定」の設定をします。そのまま「決定」ボタンを押してください。「ガイド・ブザー音量設定」については、取扱説明書P52を参照ください。お客様の希望で変更する場合は、変更してください。

⑪「日付」を設定する画面表示になります。「年」「月」「日」のそれぞれ設定します。（「年」「月」「日」は「◀」「▶」ボタンで、数値は「▲」「▼」ボタン、「決定」ボタンで決定します。）

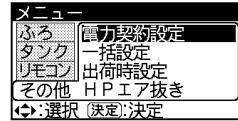
⑫「時刻」を設定する画面表示になります。「時」「分」のそれぞれ設定します。（「時」「分」は「◀」「▶」ボタンで、数値は「▲」「▼」ボタン、「決定」ボタンで決定します。）

⑬リモコンが通常の表示に戻ります。

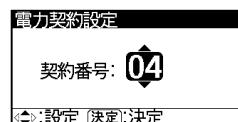
据付時の時間帯や沸き上げ設定によっては、ヒートポンプユニットが沸き上げ運転を開始している場合があります。



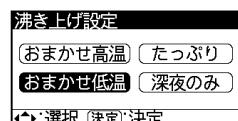
↓ 「その他」を選択して【決定】を押す



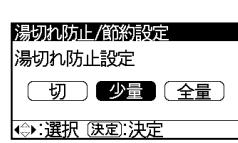
↓ 「一括設定」を選択して【決定】を押す



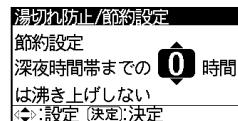
↓ 契約番号を選択して【決定】を押す



↓ 沸き上げ設定を選択して【決定】を押す



↓ 【決定】を押す



↓ 【決定】を押す



↓ 【決定】を押す



↓ 日付を設定して【決定】を押す



↓ 時刻を設定して【決定】を押す



↓ 自動で標準画面へ

9-7-4 沸き上げ確認

台所リモコンの「タンク沸き増し」ボタンを押してください。

据付時の時間帯や沸き上げ設定により沸き上げは開始している場合がありますが、「タンク沸き増し」を押さないとタンク全量を沸き上げません。

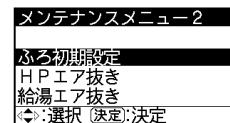
■沸き上げを開始しないまたは停止する場合

ヒートポンプ回路へ正常に水が回っていない場合、沸き上げを開始しない、または、沸き上げ開始後、エラー表示（「C09」、「HE03」、「HE16」、「HE17」、「HE19」「HE20」、「HE21」、「HE23」）が出て停止することがあります。試運転時は 30 分程度状況確認をお願いします。なお、エラー発生時は下記の手順を実施してください。

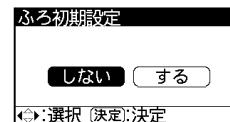
- ①台所リモコンの【メニュー】と【戻る】ボタンを同時に押してヒートポンプユニットを初期化します。エラー表示が消えます。
- ②電源を「切」にしてください。
- ③ヒートポンプ配管を確認してください。貯湯ユニット、ヒートポンプユニットの A 側、B 側の接続があつていているか確認してください。
- ④「ヒートポンプユニットへの給水」を再度実施してください。（9-2 項参照）
- ⑤電源を「入」にし「ヒートポンプユニット配管の強制エア抜き」を再度実施してください。（9-7-1 項参照）

9-7-5 ふろの試運転

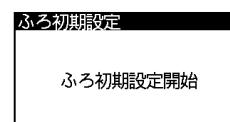
- ①浴そうを空にして排水栓をします。
- ②ふろリモコンの【おしえて】と【通話】を同時に 5 秒押します。
ふろリモコンの画面が「メンテナンスメニュー」画面に変わります。
- ③【▼】を 3 回押して、「ふろ初期設定」を選択したら、「決定」を押します。
- ④「ふろ初期設定 しない／する」が表示されたら、「▶」を 1 回押して、「する」が選択されているのを確認したら、【決定】を押します。ふろの試運転を開始します。
 - ・最初の湯はりは 20 分程度かかります。必ず最後まで実施してください。
 - ・湯はり中、浴そうの水にふれないでください
- ⑤ふろの試運転が終了すると画面には「ふろ初期設定終了」が表示された後、②の画面に戻ります。
- ⑥ふろの試運転終了後、配管および各配管の接続部から水漏れがないことを確認してください。
- ⑦ふろリモコンの「メニュー」または「戻る」ボタンを押します。
画面は通常表示に戻ります。



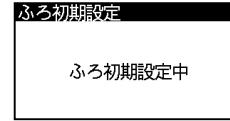
↓ 「ふろ初期設定」を選択して
【決定】を押す



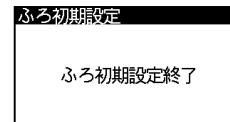
↓ 「する」を選択して
【決定】を押す



↓ 自動で次の画面へ



↓ フロ初期設定完了後自動で次の画面へ



↓ 自動で「メンテナ
ンス」の画面へ

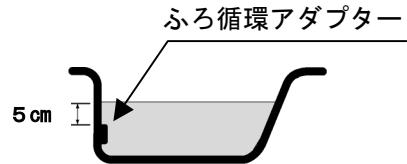
■ふろ初期設定中に停止する場合

一旦、電源を「切」にして、浴そうの栓がしてあるか、ふろ配管から水漏れしていないか確認してください。その後、電源を「入」にして再度試運転を実施してください。（9-6 項、9-7 項参照）

9-8 正常動作の確認とお客さまへの説明

取扱説明書を使用して、下記の確認を進めながらお客さまに説明してください。

- ①各混合水栓を開いて流量が充分あるか確認してください。お湯の使いはじめや入浴時は必ずお湯の温度を指先などで確かめていただくようお願いしてください。
- ②台所リモコン、ふろリモコンの動作を確認してください。リモコン設定項目を、お客様と相談して適切に設定してください。(湯量設定、給湯温度、ふろ温度、ふろ水位など)
- ③本製品は、ふろ配管凍結防止のため外気温が下がると自動的に浴そうのお湯を循環させて凍結防止運転を行います。凍結が予想される時期は、浴そうのお湯を抜かないで、ふろ循環アダプター上端より 5cm 以上残しておくようお願いしてください。浴そうに残り湯がない場合、凍結防止運転時に大きな音がすることを説明してください。また、その他の凍結防止方法についても説明してください。
- ④ふろ循環アダプターのフィルターの取り外し、取り付け方法を現品で説明するとともにふろ循環アダプターのフィルターの掃除をこまめにするようお願いしてください。
- ⑤現地施工のタンク専用止水栓の位置と操作方法を説明してください。また、断水時には機器保護のためタンク専用止水栓を閉じるようお願いしてください。
- ⑥タンクの排水方法を実際にやって説明してください。製品の配管施工状態や脚力バーが取付けられている場合、脚力バーの取り外し方について説明してください。
- ⑦逃し弁の機能と点検方法を実際にやって説明してください。また、排水栓を閉めていても、沸き上げ中はタンク排水管より少量の膨張水を排出することを説明してください。
- ⑧漏電遮断器の動作確認方法を実際にやって説明してください。
- ⑨停電時は給湯・ふろ機能とも使用できません(水は出ます)。また、断水時はお湯も水もない旨説明してください。



【BHP-F37GDK、BHP-F46GDK のみの注意点】

- ⑩水道直圧式のためお湯が豊富に出ます。お湯の使いすぎに注意していただくようお願いしてください。
- ⑪一度に大量のお湯を使用した場合、夜間などタンク温度が低下した場合、冬季など水温が低い場合、湯がぬるくなる場合があります。お湯がぬるくなる場合は、蛇口を絞ってください。その旨説明してください。

■これだけはお客さまに説明してください

- 沸き上げ中はヒートポンプユニットから運転音がします。また、貯湯ユニットはふろ湯はり時等に運転音がします。その旨説明してください。
- 工事説明書に基づいた工事が行われると思いますが、据付条件などにより多少異なっている場合はそのポイントを説明してください。
- 配管のネジ切りなどに油を使用した場合、しばらくの間、給湯専用混合水栓から油やよごれが出る心配があります。その旨説明してください。

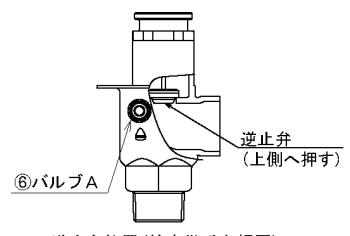
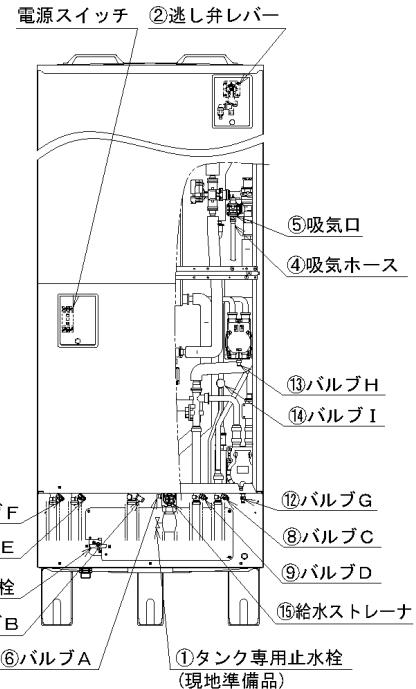
■お願い

- 取扱説明書および工事説明書は、必ずお客様にお渡しし、保管をお願いしてください。
- 試運転後、1か月以上使用しない場合は、貯湯ユニットの電源スイッチと元電源ブレーカーを「切」にし、貯湯ユニット・ヒートポンプユニット内の水を完全に抜いてください。
- 凍結のおそれがある場合は、据付から入居まで期間がある場合でも電源スイッチを切らないでください。電源を入れておくことができない場合は、10 項の「水抜き要領」にしたがって、貯湯ユニット・ヒートポンプユニット内の水を完全に抜いてください。

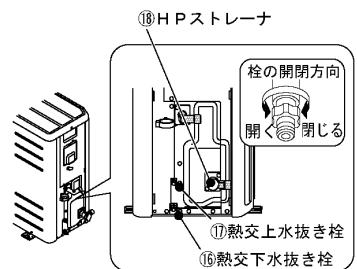
10. 水抜き要領

10-1 水抜き手順【BHP-F37GDK、BHP-F46GDK】

- (1) 貯湯ユニットの電源スイッチが「入」になっていることを確認してください。
- (2) 貯湯ユニットの設定を「深夜のみ」「湯切れ防止 切」にしてください。
- (3) ふろリモコンで給湯温度を「40°C」に設定してください。
- (4) 混合水栓を開き、お湯が出なくなるまでお湯を出した後、混合水栓を閉じてください。
- (5) ふろ設定温度を「低温」、水位を「1」に設定して、ふろ循環アダプターの上端まで湯はりをしてください。
(既にふろ循環アダプターの上端まで浴そうに残湯がある場合は湯はりをする必要はありません。)
- (6) ①タンク専用止水栓を閉じ、②逃し弁のレバーを上げ、③排水栓を開いてタンク内のお湯を排水してください。
(タンク内のお湯が抜けるまで、約1時間～1時間半かかります。)
- (7) 配管内の水を抜くため、弁類を移動します。
 - ・ふろリモコンの【おしゃて】と【通話】ボタンを同時に5秒間押して、『メンテナンスマニュアル』モードを起動させてください。
 - ・【▲】【▼】ボタンで『テストモード2』を選択し、【決定】ボタンを押してください。(『テストモード2』は(8)の作業終了まで解除しないでください。)
 - ・【▲】【▼】ボタンで『循環調整弁』を選択してください。【▲】【▼】ボタンで『2000～2300パルス』の間に合わせ【決定】ボタンを押してください。
 - ・【▲】【▼】ボタンで『ふろ混合弁』を選択してください。【▲】【▼】ボタンで『1500パルス』に合わせ【決定】ボタンを押してください。
 - ・【▲】【▼】ボタンで『中温水混合弁』を選択してください。【▲】【▼】ボタンで『1500パルス』に合わせ【決定】ボタンを押してください。
 - ・【▲】【▼】ボタンで『ふろ循環ポンプ』を選択してください。【◀】【▶】ボタンで【ON】を選択して【決定】ボタンを押してください。
 - ・【▲】【▼】ボタンで『ふろ電磁弁』を選択してください。【◀】【▶】ボタンで【ON】を選択して【決定】ボタンを押してください。
- (8) ふろ循環ポンプとふろ電磁弁がONしたら、ふろ電磁弁の④吸気ホースを外して、指で⑤吸気口をしばらく(約30秒)塞いでください。ふろ電磁弁内の残水を排水します。排水後は④吸気ホースを元のように付け直してください。
- (9) 【▲】【▼】ボタンで『ふろ循環ポンプ』を選択し、【◀】【▶】ボタンで【OFF】を選択して【決定】ボタンを押してください。
- (10) 【▲】【▼】ボタンで『ふろ電磁弁』を選択し、【◀】【▶】ボタンで【OFF】を選択して【決定】ボタンを押してください。
- (11) 【▲】【▼】ボタンで『中温水混合弁』を選択してください。【▲】【▼】ボタンで『2800パルス』に合わせ【決定】ボタンを押してください。
- (12) 『テストモード2』の状態で貯湯ユニットの電源スイッチを「切」にします。
- (13) 浴そうの水を全て抜いてください。
- (14) 配管内の水を抜いてください。
 - ・⑥バルブA、⑦バルブB、⑧バルブC、⑨バルブD、⑩バルブE、⑪バルブF、⑫バルブG、⑬バルブH、⑭バルブIを開いて配管内の水を全て抜いてください。水抜きは、ビニールホース(⑥～⑭は現地準備品：内径8mm)を使用して、バケツ等へ排水を導いてください。
 - ・給水継手部の⑮給水ストレーナを外し、奥にある逆止弁を六角レンチなどで上側へ押して配管内の水を抜いてください。(右図参照)
- (15) ヒートポンプユニットの水を抜いてください。
 - ・ねじを取りはずし、カバーをツメ(6か所)が抜けるまで下方へスライドさせてはずしてください。
 - ・⑯熱交下水抜き栓、⑰熱交上水抜き栓、⑱HPストレーナを開いてヒートポンプユニット内の水を抜いてください。
- (16) 全ての水抜き栓から水が出なくなったら、②逃し弁のレバーを下げ、③排水栓、⑮給水ストレーナ、⑱HPストレーナを閉じ、④～⑭の水抜き栓を全て閉じてください。



逆止弁位置(給水継手左視図)



10-2 水抜き手順【BHP-F37GUK、BHP-F46GUK】

(1) 貯湯ユニットの電源スイッチが「入」になっていることを確認してください。

(2) タンクの設定を「深夜のみ」「湯切れ防止 切」にしてください。

(3) 台所リモコンまたはふろリモコンで給湯温度を「40°C」に設定してください。

(4) 混合水栓を開き、お湯が出なくなるまでお湯を出した後、混合水栓を開じてください。

(5) ふろ設定温度を「低温」、水位を「1」に設定して、ふろ循環アダプターの上端まで湯はりをしてください。

(既にふろ循環アダプターの上端まで浴そうに残湯がある場合は湯はりをする必要はありません。)

(6) ①タンク専用止水栓を閉じ、②逃し弁のレバーを上げ、③排水栓を開いてタンク内のお湯を排水してください。

(タンク内のお湯が抜けまるまで、約1時間～1時間半かかります。)

(7) 配管内の水を抜くため、弁類を移動します。

- 台所リモコンまたはふろリモコンの【おしえて】と【通話】ボタンを同時に5秒間押して、『メンテナンスマニュー1』モードを起動させてください。

- 【▲】【▼】ボタンで『テストモード2』を選択し、【決定】ボタンを押してください。(『テストモード2』は水抜き作業終了まで解除しないでください。)

- 【▲】【▼】ボタンで『ふろ混合弁』を選択してください。【▲】【▼】ボタンで『1500パルス』に合わせ【決定】ボタンを押してください。

- 『ふろ循環ポンプ』を選択してください。【◀】【▶】ボタンで【ON】を選択して【決定】ボタンを押してください。

- 【▲】【▼】ボタンで『ふろ電磁弁』を選択してください。【▶】ボタンで【ON】を選択して【決定】ボタンを押してください。

(8) ふろ循環ポンプとふろ電磁弁がONしたら、ふろ電磁弁の④吸気ホースを外して、指で⑤吸気口をしばらく(約30秒)塞いでください。ふろ電磁弁内の残水を排水します。排水後は④吸気ホースを元のように付け直してください。

(9) 【▲】【▼】ボタンで『ふろ循環ポンプ』を選択し、【◀】【▶】ボタンで【OFF】を選択して【決定】ボタンを押してください。

(10) 【▲】【▼】ボタンで『ふろ電磁弁』を選択し、【◀】【▶】ボタンで【OFF】を選択して【決定】ボタンを押してください。

(11) 【▲】【▼】ボタンで『ふろ混合弁』を選択し【▲】【▼】ボタンで『2000パルス』に合わせ【決定】ボタンを押してください。

(12) 『テストモード2』の状態で貯湯ユニットの電源スイッチを「切」にします。

(13) 浴そうの水を全て抜いてください。

(14) タンク内の水が全て抜けたら配管内の水を抜いてください。

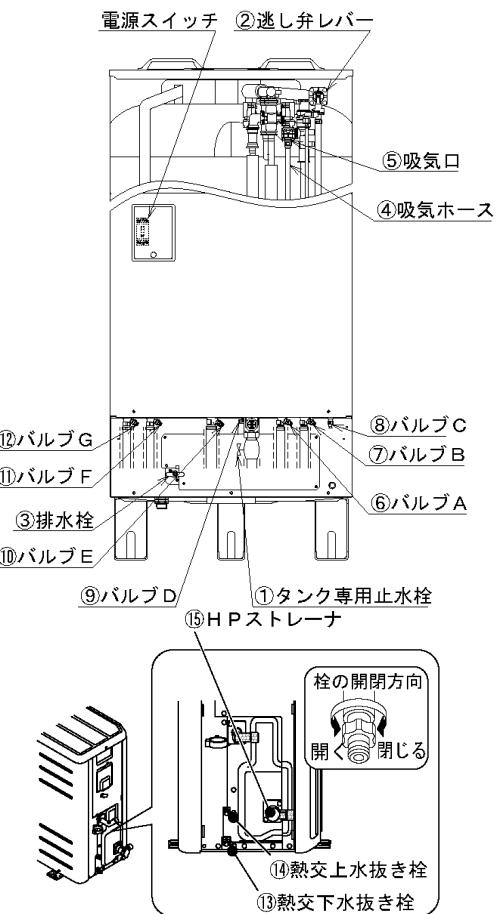
⑥バルブA、⑦バルブB、⑧バルブC、⑨バルブD、⑩バルブE、⑪バルブF、⑫バルブGを開いて配管内の水を全て抜いてください。水抜きは、ビニールホース(現地準備品:内径8mm)を使用して、バケツ等へ排水を導びいてください。

(15) ヒートポンプユニットの水抜きをします。

- ねじを取りはずし、カバーをツメ(6か所)が抜けるまで下方へスライドさせてはずします。

- ⑬熱交下水抜き栓、⑭熱交上水抜き栓、⑮HPストレーナを開いて、ヒートポンプユニット内の水を抜いてください。

(16) 全ての水抜き栓から水が出なくなったら、②逃し弁のレバーを下げ、③排水栓、⑮HPストレーナを閉じ、⑥～⑯の水抜き栓を全て閉じてください。



据付工事後のチェックリスト

据付け工事後は、下表にあげたチェック項目を確認ください。不具合があつた場合は、必ず直してください。（機能が発揮できないばかりか安全性が確保できません）

	チェック項目	ページ	判定
据付け 環境	水道水を使用していますか(井戸水は使用不可)	1,8	
	寝室や近所の迷惑になる場所にヒートポンプユニットを据付けていませんか	4	
	-15°Cを下回る地域で、貯湯ユニットを屋外に据付けていませんか	2,4	
	ヒートポンプユニットを屋内に設置していませんか	1,6	
	給水圧力は0.2MPa以上ありますか	1,10	
据付け 状態	ヒートポンプユニットはドレン水をたれ流しても良い場所に据付けていますか	4,6	
	貯湯ユニットの脚がアンカーボルトで固定されていますか	7	
	貯湯ユニット満水時の重量に十分耐えますか	7	
	貯湯ユニットのメンテナンススペースが確保されていますか	5	
	ヒートポンプユニットの施工制約は守られていますか	5	
	ヒートポンプユニットの降雪対策は問題ないですか	6	
	ヒートポンプユニットを天吊りする場合は、天井強度は十分ですか、また、取付金具などは適切ですか	6	
	火気・引火物・可燃性ガスは近くにありませんか	1,6	
	据付床面の防水、排水工事はしてありますか	1,2	
配管の チェック	上部を固定しましたか(2階以上に据付けた場合)	7	
	外板に傷、変形はないですか	—	
	タンク専用止水栓(給水配管)は適切な位置ですか	10	
	ヒートポンプ配管の配管制約(材料、配管径、長さ、曲がりなど)は守られていますか	9	
	ヒートポンプ配管はペアチューブでなく独立した配管となっていますか	9	
	排水口空間(50mm以上)を確保していますか	10	
	給湯配管材は耐食性、耐熱性に問題ない材質ですか	9	
	排水管材は90°Cの温度に十分耐えるものですか	9	
	接続部から水漏れはありませんか	10,11	
	凍結防止・保温工事は適切ですか。(各配管に凍結防止ヒーター・保温材は巻いてありますか)	11	
	風雨、直射日光の防護は十分ですか	—	
	逃し弁のレバーを手で閉閉し、放水、止水が正常ですか	—	
	全ての給湯栓と混合水栓をひらいて各蛇口からきれいな水が出るのを確認しましたか	—	
	各水栓、給水継手部のストレーナを点検しましたか(ゴミが入っていると湯の出が悪くなります)	18	
電気工事の チェック	指定された配管径、配管長になっていますか	9	
	ふろ配管にフレキ管を使用している場合、片側0.5m以内になっていますか	9	
	配管途中に無理な配管によるツブレ、曲がりはありませんか	—	
	浴そうのふろ循環アダプターは別売純正部品が付いていますか	11	
	電源は単相200Vですか	13	
	電力会社との契約は時間帯別電灯契約または季節別時間帯別電灯契約になっていますか	13	
	電線(ケーブル)の太さは適切ですか	13	
	200V電源ブレーカはついていますか	13	
	200V電源ブレーカの定格は十分ですか	13	
その他の チェック	200V端子台の締め付けは十分ですか	13	
	保護アース(設置)工事は確実ですか	14	
	漏電遮断器の動作確認はしましたか	20	
	リモコンケーブルの接続は確実ですか	15~17	
	リモコンケーブルは電源電線に交差、近接していませんか	15	
	貯湯ユニットを満水にしましたか	18	
	ヒートポンプユニットのエア抜きはしましたか	18,25	
	給湯機周辺や配管からの水漏れはないですか	—	
	逃し弁のレバーを立てて排水栓を開いた時、排水があふれ出ることはないですか	—	
	給湯熱交換器、給湯循環ポンプのエア抜きはしましたか(BHP-F37GDK,BHP-F46GDK)	19,25	
	ヒートポンプユニットの沸き上げ、湯はり試運転は正常に完了しましたか	21,22,27	
	電力契約モードの設定はしましたか	21,22,26	
	湯水混合栓からの流量は十分ですか	28	
	漏電遮断器は切りましたか(試運転完了後、すぐに入居しない場合など。但し、凍結のおそれがある場合は、工事説明書に記載の指示に従ってください。)	28	
	お客様への取扱い説明、リモコンの各種設定を実施しましたか	28	

日立アプライアンス株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸一丁目 16 番 1 号 (ニューピア竹芝サウスタワー)